

「なにをシエアするハウスター」

作・作詞… 保科 由里子

【登場人物】

花園みゆき（秋園美緒）： 女性専用シェアハウス「ア・トップスター」の大家。
西澤薫子（上田亜希子）： 「ア・トップスター」の新入居者。シングルマザー。
森出衣明日（遠藤瑠美子）： 「ア・トップスター」の住人。ヨガの先生見習い。
西澤美咲（笠井日向）： 西澤の中学2年生の娘。
南潤（高橋卓士）： 森出の彼氏。サラリーマン。
花園ゆうき（富永雄翔）： 「ア・トップスター」の住人。みゆきの弟。大学生。
山本優（中村美貴）： 「ア・トップスター」の住人。コスプレイヤー。
ザキヤマ（山崎将平）： 「ア・トップスター」の住人。フリーター。

【ゲスト】

シェアハウス見学者として登場。

【場所】

東京都世田谷区にある、女性専用シェアハウス「ア・トップスター」。

【時】

現在。8月31日の日曜日。

*文末に句点のない文章は次のセリフがカットインすることを意味する。

*歌は心の声なので、歌っている内容は他の人には伝わっていないものとします。が、お互いを、リアルに存在する人間だと意識し始めたり、リアルにコミュニケーションションを取れるようになってくると、歌っている内容が他の人にも伝わっていき、

【初演】

2020年1月22日～23日 @赤坂RED/THEATER

【ブローグ】

東京都世田谷区内にある、瀟洒な洋館風の一軒家。外壁は白く、屋根は品の良いピンク色である。ここは、女性専用シェアハウス「ア・トゥプスター」。

8月31日日曜日の朝7時頃、鼻歌を歌いながら「ア・トゥプスター」の門の辺りを掃除をしている、大家の花園（40代）。家の中はまだ見えな

♪M1 「朝」

花園：（鼻歌的に）ちらちら めるめるる 朝

ちらちら 日曜日の朝

ちらちら めるめるる 今日の良い一日

ちらちら

住人の衣明日（30代）がジョギングをしに玄関から出てくる。（衣明

日は基本大阪弁、彼氏の潤と話す時は標準語で話す）

衣明日： おはようございますー！

花園： おはようございます。

衣明日： 行ってきますー！

花園： 行ってらっしゃー！車に気をつけて、今日は迷わないようにねー！

衣明日： はー！

花園：（鼻歌）ちらちら めるめるる

遠征帰りの住人の山本（30代）が大きなスーツケースを持って帰宅する。少し疲れている。

山本： ただいまです。おはようございます。

花園： おかえりなさい。どうだった、撮影会？

山本： サイトで見たたよりは最強に本物のお城で気分は最高にスロットランドの女王で嬉

しくて心が震え過ぎて幸せで死に散らかしました。

花園： 死ななくて良かった、夜なべしてドレス作った甲斐があったじゃない。

山本： 本当にそれなんです。とりま今から寝てきます。おやすみなさい。いつもお掃除ありがとうございます。

花園： とんでもない。おやすみなさい。良い夢見てね。

山本： 昨日の様子を夢の中で再現がフマします。やっぱりお城は最高です。

花園： あとでお写真見せてね。

山本： はいー！

山本、家の中に入る。

花園： あら・・・

塵取りを取りに行く花園。

誰もいない舞台。

そこに、美咲（中学2年生）が人目を気にしながら静かにやってくる。

キョロキョロ。チラチラ。何かを探している様子。

そこへ、慌てた衣明日が走って戻ってくる。

衣明日： やだやだやだもうもうあぁあぁあぁもー朝日があっ！

と、声が聞こえたので、美咲はコソコソと物陰に隠れて「ア・トップスー」に入っていく衣明日を見つめる。衣明日がいなくなったのを確かめてから、改めて、「ア・トップスター」を見ようと入り口に近づく。

花園が塵取りを手にして戻ってくる。

再び隠れる美咲。

すぐに住人のザキヤマ（20代後半）が仕事から帰ってくる。

花園： ザキちゃんおかえりなさい、どうだった？

ザキヤマ： 今夜もがんばった、お客さんの相手しないですとお花活けてさ、お前みたいなのは花が好きだから花でも活けてろーって。ウケる。

花園： お花好きだったけ？

ザキヤマ： フツー。でもなんかセンスで乗り切った、一晩中かかっちゃったけど。人間、

やねはなんでもなまめめってことよね。私自信持っちゃおう！

花園： 良いことじゃない。

ザキヤマ： でしょ、花ちゃんも自信持ってるのよ。

花園： べっぴんという意味？

焦った衣明日が再び玄関から出てくる。

衣明日： ザキヤマ、おかえり！

ザキヤマ： ただいま。

花園： あら、衣明日ちゃん今出て

衣明日： まだウォッチ忘れたの怒られちゃう、もう信じられない、朝日がああもーっし

やー！

と言って、全力ダッシュで走り去る。

ザキヤマ： いってら〜！

花園： 気をつけてね〜！

ザキヤマ： あれ毎朝やってるよね。ウォッチウォッチって。

花園： (同意して)ね。これから朝食だけど食べる？

ザキヤマ： 食べる〜やったー！

と言って、二人は「ア・トップスター」に入る。

美咲、静かに出てきて表札を読む。

美咲： やっぱ「こだ」...

美咲： ららら ア・トップスター

門が開く。

転換。

美咲は門の中には入らず、来た道へ退場。

明かりがつくと、そこは「ア・トップスター」のダイニングであり、建物の一階に位置する共用エリア。大きなダイニングテーブルが一台、不揃いの椅子が6脚。本棚、ランプ、ソファなどがある。上手側にブラコンがーし。

「ア・トップスター」は、片仮名のロの字のように建築されており、真ん中に中庭がある（舞台上からは見えない）。

舞台上手の手前の袖は玄関へ、上手奥の袖は洗濯スペースやお風呂場などの水回りの共用スペースへと続く。

下手の手前の袖は直接キッチンに繋がっており、下手奥の袖は入居者の個室がある二階へ行く階段に続いている。

舞台上にあるダイニングと中庭を挟んだ向かい側には、上手側の共用スペースと下手側の二階への階段を繋ぐ廊下がある（舞台上からは見えな

ら）。

朝食の時間が終わった後。
ダイニングでお茶してる、花園とサキヤマ。サキヤマの傍には、お風呂セット、タオル、着替え。

花園： で、どんなお花活けたの？

サキヤマ： なんか、ピンクの造花？

花園： 造花？活けたの？

サキヤマ： そ。結構難しかった、造花って手強いじゃん？上手にやってたのに、ダメ出しが出るの、なおていんかひ。

花園： 店員でしよ、マッチョの。

サキヤマ： 細マッチョ♡マッチョって、なんか「男」って感じがするっていつか、守っててくれそうっていつか、守りたいたっていつか、蓋開けて欲しいっていつか、ま自分で開けられるんだけど、っていつかなんであんなに固く閉めてあんなか意味不明なんだけど、とにかく細マッチョってなんかセクシーで最強じゃない？うちのなおていんは、良い感じに細いんだけど欲しかったんだけどがマッチョなの、イヤつくないの、美しいの、美マッチョなのよ。ミ。ミ。

花園： でもお、造花活けるのって難しい。

しっかりしてよ。

衣明日： わかってるよ……。

座り込む衣明日。

ザキヤマ： やだ、あんたほんとに大丈夫？朝日浴びられなかったらパワー出ないとか？

自然派にもほどがあんでしょ。

ロップに水を入れて戻って帰ってくる花園。

花園： はいはい、さあどうぞ。

衣明日： どうも……。

ザキヤマ： 朝日ヨガって響きがなんかスピリチュアルみある。

花園： ね、お部屋で休んできたら？

衣明日： そうします……朝食ってまだありますか、あとで食べるんで置いてもらおう

ザキヤマ： それ、まがで、ルール違反。朝食は朝食の時間内に。花ちゃんに迷惑でしょ、

新入りじゃないんだからルールは守ってください、スピリチュアルさん。

衣明日： はい？いやまちであんたのオーラ茶色いけど、うんこなんじゃね？

花園： あら。

衣明日はキッチンに寄ってロップをさげながら、下手奥へ去る。

ザキヤマ： ちょっーなによー言わなれなくてもわかってるわよ朝食食べたばっかなんだ

から仕方ないでしょ生きてんだから、なんなのあんたは生きてないわけ、ほ

んとデリカシー！スピリチュアルさんやばー！

ザキヤマ、お風呂セットなどを持って、怒って上手奥へと出て行く。

花園： (ザキヤマの背中に向かって)大丈夫、私も生きてるから、なんなら私も今っん

玄関のチャイムが鳴る。素敵な鐘の音。

花園、時計を確認して、

花園： あらうまつ。

再びチャイム。

花園： はい。

間髪入れずにもう一度チャイム。

花園、玄関へと去る。ダイニングには誰もいない。

花園： おはようございます。

と言いながら、ドアが開ける音。

次の会話は、姿は見えないまま玄関でのやり取りが聞こえる。花園と西澤親子の声だ。

(声) 西澤： おはようございます。先日はありがとうございますでした。本日からお世話になります。

(声) 花園： 西澤さん、お待ちしてましたよ。こちらこそ今日からよろしくお願ひします。さあ、あがって。西澤さんたちの靴箱はそこね。

(声) 西澤： はい、ありがとうございます。(美咲に)ほね。

(声) 美咲： (小声で)ありがとうございます。

花園、西澤(40歳前後)、遅れて美咲がダイニングへ入ってくる。

初めて「ア・トップスター」に足を踏み入れる美咲は、部屋中をキョロキョロ見回す。

花園： あがって、って変ね、今日からここがお家になるのに。お荷物はお部屋に入れておきましたから。

西澤： 今日からごほうびよろしくお願ひいたします。こね、しまらないものですが……(と)言って、菓子折りを渡す。

美咲： (室内を見て、独り言)オシヤレ……。

花園： まあまあ、そんなお気遣い必要ないのに。

美咲： (独り言)「ランラン」。

花園： すみません、ありがたく頂戴致しますね。(椅子を勧めて)どうぞ。分からないことがあったらいつでも聞いてくださいね。

西澤： お世話になります。ほれ。

美咲： 西澤美咲です、お世話になります。よろしくお願いします。

花園： この間お会い出来なかった美咲ちゃんね、まあ可愛いお嬢さん。何年生？

美咲： ちゅう

西澤： 中二です。

花園： え、14歳？若いわあ！有名な女子校に通ってるんでしょ？

美咲： いえ別に

西澤： たまたま入れたんですよ。

花園： あ、もしかして明日から学校？

美咲： は

西澤： そうなんです、やっと夏休みが終わるんですよ、長かったあ。(美咲に)ね。

美咲： うん。

西澤： 最近の年頃の女の子事情は大変なので、ご迷惑をおかけしないように気をつけます。ね。

美咲： うん。

花園： 大丈夫、みんなで楽しく暮らしましょう。みんな好き勝手にやってるのよ。

美咲： はい。

花園： まずはお茶でもいかが？あ、それとももうお部屋に行かれます？

西澤： お茶頂きます。(美咲に)ね？

美咲： うん。

花園： じゃあちょっと待っていてちょうだいな。

西澤： すみません、ありがとうございます。(美咲に)花園さん良い人で良かったね。

花園はキッチンへ。

♪M2 「ア・トップスターでリスタート」

西澤： 今日から始まるのね

美咲： 知らない人と共同生活

西澤： どんな人たちが住んでるのかしら

美咲： なかなかエグい

西澤.. みなさん良い人たちかしら
美咲.. シェアハウスなんて
友達に恥ずかしくて言えない
西澤.. まずはここから再スタート
美咲.. でもママにはそんなこと言えない
西澤.. 頑張らなくちゃ
美咲.. とりま頑張らなくちゃ

上手奥から洗濯機がまわっている音がする。その音を聞く二人。

西澤.. 洗濯機ね。
美咲.. もしかして共同？
西澤.. そう。
美咲.. ふーん、

美咲.. ってキモい！
二人.. 知らない人と共同洗濯機
美咲.. でもパパと一緒に洗うよりマシか
西澤.. 旦那と一緒に使うよりマシか
美咲.. これからママと二人の生活
西澤.. なんて気が楽なのかしら
美咲.. なかなかエモい
西澤.. 再スタート
二人.. 頑張らなくちゃ
美咲.. 心機一転できるかな
できるといいな

西澤.. なにが、ふーん、よ、自分で洗濯しないでしょ？
美咲.. そうだけど。ねえ、このプランコ
西澤.. 珍しいわよねえ、お家の中に。
美咲.. これ乗って良いのかな？乗っても良い？
西澤.. あとで花園さんに聞いてみましょ。
美咲.. うん。

西澤： ねえ、共同生活なんだから、みなさんに迷惑かけないですよ。

美咲： わかっているってば、子どもじゃないんだから。

西澤： 子どもでしょ。

美咲： あーあー学校遠くなるなあ、電車長くなるのいやだなあ、めんど。

西澤： そうねえ、めんどよねえ。

美咲： ママはめんどくないよね？通うの私なんだから。

西澤： めんどくさく言っただがめんどよ。

美咲： えなにそれ、めんど。

西澤： それよそれ、「めんど」。

バスルームの方からザキヤマの声。

(声) ザキヤマ： 花ちゃん、トイレのトイレ掃除もしておいたわよ、どういたしまして

〜！

ザキヤマはダイニングルームには入ってこずに、自室へと去る。

西澤はぎょとんとする。

西澤： トイレ掃除したって。

美咲： うん。

西澤： どなたかしら。

美咲： 住人？

西澤： だって今の男の人の声でしょ。え・・・違うの？

美咲： でも住んでたりして。

西澤： ええっ！それはないでしょう。

美咲： じゃ掃除の人？

西澤： あ、そうか、ダスキンの人ね。でも、「わよ」って言ってたわよ、ダスキンの人。

美咲： 「わよ」って言う男の人かもよ。

西澤： え〜おかしいでしょうー！

美咲： そうかな。

花園、紅茶とお菓子をお盆に乗せて戻って来る。

花園： お待たせしました。はい、お紅茶と、今頂いたお菓子。
西澤： すみません。わぁ美味しそう。
花園： 今日からここがお家なんだから気楽にしてよ、当たり前だけど、自由にしてね。
西澤： ありがとうございます。良かったね。
美咲： うん。
花園： さぁさぁ、召し上がって。
西澤： ありがとうございます。ほね。
美咲： いただきます。
花園： はい、どうぞ。

ここから先、西澤は自分がお土産に持ってきたお菓子をタイムリングを見
計らって、美味しそうにパクパク食べる。ただし、大食いな訳ではない。

花園： お若い方がうちに任んでくださるなんて、本当に嬉しい。
西澤： 珍しいですよ、シェアハウスに親子連れなんて。
花園： まあそうですね、でもうちは大歓迎。自分が若返った気分になっちゃうー！若いエキ
ス嗅いじやお、クンクン。
西澤： クンクン？
花園： あ、花ちゃんって呼んでね。西澤さんも。
西澤： 花ちゃん・・さん。
花園： さんは、なーし。
美咲： （小声で）花ちゃん。
西澤： これみーちゃん。
花園： 美咲ちゃん。
美咲： え・・なんか照れます。
花園： 私も。
西澤： えなんでですか？
花園： なんでだろ。だって、美咲ちゃんが照れるから。
美咲： えどういう意味ですか？
花園： えわかんない。
美咲： えわかんないってどういう意味ですか？

花園と美咲、楽しそう。

洗濯が終了した音が聞こえる。ピーッピーッ。

美咲は、西澤に「フンコロ」のことを尋ねてもらいたいと思ってるが、西澤は気がつかない。

西澤：洗濯機は1台でしたよね？

花園：そうなの。不便でごめんなさいね。

西澤：いえいえ。

花園：乾燥機あるけど、お庭に干しても良いからね。お庭は、あっち（下手奥）からもこっち（上手奥）からも出られるから。

衣明日、洗濯袋を抱えてダイニングに入ってくる。

西澤：あれそうなんですか。ありがとうございます。

衣明日：あ、こんにちは。

花園：あら丁度良かった。衣明日ちゃん、こちらは、今日からここに住む、西澤さんと、お嬢さんの美咲ちゃん。

西澤：西澤です、よろしくお願ひ致します。

衣明日：入居して三ヶ月、「ジャスミン」の森出衣明日です。

美咲：モリテイアス？カッコイイ、芸名みたい。

西澤：（美咲に）これ。

衣明日：よく言われる。

花園：でも本名なんですって。

西澤：まあオシヤシ。

衣明日：よく言われます。

美咲：西澤美咲です。

衣明日：よろしく、美咲ちゃん。美咲ちゃんの名前もカッコイイ。仲良くしてね。

美咲：はい、よろ

西澤：良かったじゃない。よろしくお願ひします、森出さん。

衣明日：衣明日って呼んでください。

西澤：衣明日・・・さん。

美咲：（少し小声で）衣明日。

西澤：これみーちゃん。

衣明日：え、なに、嬉しいー！こんな可愛い子に秒で呼び捨てされるとか！はあい、美

咲ちゃん。みーちゃん？の方がいい？

美咲： いえ、美咲、で。私も呼び捨てでお願いします！

衣明日： 美咲。

美咲： 衣明日。

衣明日： 美咲。

美咲： 衣明

衣明日： なにこの遊びちゃー楽しいー癒される！ありがとうね。

美咲： (嬉し恥ずかしペコリ)

衣明日： じゃあ、ちよっと失礼します。

衣明日は、洗濯袋を抱えて上手奥の共用スペースの方へ去る。

花園： 美咲ちゃん、あのフランク気になってる？

美咲： あ・・・。

花園： いつでも自由に乗って良いからね、私が子どもの頃はお庭にあっただけど。う

ちの自慢なの。

美咲： ありが

西澤： 良かったね。

美咲： うん。

美咲、今乗って良いものか分からず、モジモジしている。

美咲： あの、フランク

西澤： 今乗って良いんですよね？

花園： もちろん。

美咲、フランクに駆け寄り、乗る。

花園： まあ可愛い、フランクも喜んでる。

西澤： 珍しいですよねえ、室内にフランク。

花園： ですよ。

衣明日が戻ってくる。

衣明日： 花ちゃん、洗濯機、前の人終わったんですけど、中身まだ入ってて使えないんですけど。

花園： あらあら、まだ山本さんね。じゃ、ちょっと待ってね。

花園、ダイニングルームを出て洗濯機を見に行く。

衣明日： ありがとうございます。

(声)花園： はい。

衣明日、ダイニングテーブルにつく。

衣明日： お茶してるんですか？私も一緒によっかな、(美咲に)良い？

美咲は頷く。

衣明日、キッチンへ行く。

美咲： 花ちゃん、洗濯機見に行ったのかな？

西澤： (お菓子パクパク)そうじゃない？

美咲： めっちゃ食べてんじゃん、自分で買ったお菓子。

西澤： だってこれ好きなんだもん。あなたも召し上げ、ほれ。

美咲： (渡されたお菓子をパクパク)うまっ！

西澤： 知ってる。

美咲： ねえ、もう部屋行こうよ。

西澤： そっね、でも私花ちゃんさん待ってないよ。

衣明日、紅茶を持って戻ってくる。

美咲： 衣明日、私部屋見てきます。

衣明日： どこか知ってるの？

美咲： (西澤に)びびっ。

西澤： 二階の一番奥。

衣明日： 「チューリップ」か。では、私が「ア・トップスター」のツアーしてあげまし

よう。どう？

美咲： はいっ！

衣明日： つっても、私もまだ3ヶ月だけだね。

美咲： えっ、嬉し

西澤： すみません、朝のお忙しい時間に。娘がご迷惑をおかけして。

衣明日： 全然ですよ。じゃ行く、美咲。

美咲： はいっ！衣明日。

衣明日と嬉しそうな美咲は、下手奥の階段の方へ出て行く。

一人になった西澤、お菓子をパクパク。

玄関のチャイムが鳴る。

西澤： 花ちゃんさん？ピンポン鳴ってますよね？

玄関のチャイムが再度鳴る。

西澤、玄関に向かう。

西澤： どなたかしら。

西澤が玄関に向かおうとするとゲストがダイニングに入ってくる。

西澤： あれ、ご自分で。お入りに。

ゲスト： 入ってきてしまいました。おはようございます。

西澤： おはようございます。

見つめ合う二人。

間。

西澤： おはようございますっ？

ゲスト： あ、「こころ」ア・トップスター」ですよ。

西澤： ええ。

ゲスト： 私／僕／自分、こちらのホームページを見て、見学に伺ったんですけど、

西澤： ええ。

ゲスト： お電話とかしてなくて、
西澤： ええ。
ゲスト： メールで問い合わせとかもしてなくて、
西澤： ええ。
ゲスト： でも見学したいな〜って思ってる、
西澤： ああ。
ゲスト： あ、なので、見学したいな〜って、
西澤： はい。
ゲスト： だから、えっと、見学を、
西澤： ええ。
ゲスト： どう…ですかね？
西澤： どう…でしよっか？
ゲスト： できますか？
西澤： 見学？
ゲスト： はい。
西澤： どうかしら。
ゲスト： はい？
西澤： どうかしら。
ゲスト： えっと？
西澤： (大きな声で) どうかしら。
ゲスト： あ聞こえています。
西澤： 耳が遠いのかと思っちゃっ
ゲスト： っで。
西澤： っで？
ゲスト： はい、っで？
西澤： はい、っで？
ゲスト： ん？えっと…？
西澤： はい。
ゲスト： あれ？
西澤： はい？
ゲスト： これは…
西澤： これは…
ゲスト： …
西澤： …
ゲスト： …
西澤： …

西澤： なにか起きてます？

ゲスト： 起きてないです？

西澤： 誰が？

ゲスト： 誰が？

西澤： 誰が、起きてないんです？

ゲスト： 誰か、起きてないんですか？

西澤： 誰が起きてないんですか？私？

ゲスト： いやおかしいでしょ。

西澤： そうね。

ゲスト： あの、

西澤： はい。

ゲスト： あれ、あ、もしかして、アポなしで来たから？ですか？

西澤： なにが？

ゲスト： なにが？

西澤： じゃあ、なにを？

ゲスト： なにを？え待って待って、なにこのシェアハウス、早速トラップがすごい。

西澤： え早速トラップ？

ゲスト： えほんとほんと、えなんだろう、なんなんだろう、なんのテスト？

西澤： テストなの？早速トラップテスト？

ゲスト： えほんとに、神様助けて。あ、わかった！そうか、入居テスト的な？いや、見

学テスト？

西澤： えっ、見学するのに早速トラップテスト必要なんですか？私受けてない！

ゲスト： ちょっと待ってくださいね、今考えます。

西澤： 私も考えます。・・・でもなにを考えたら良いんだろう・・・？

玄関から潤の声。

(声) 潤： ちゃーすーあがりまーす！

衣明日の彼氏の潤(30代)、ダイニングに姿を表す。

3人見合う。

西澤： お、おはつうじつにいます。

潤： 南です。

西澤： えっ！初恋の人と同じ苗字・・・うふふふ。

ゲスト： はい？

西澤： こんにちは、南さん。

潤： こんにちは、西澤さん。じゃ、ちょっと、失礼して。

西澤： あ、ちょっと、

潤、上手奥へ向かう。

お風呂上がりでサッパリしたザキヤマ入ってくる。

ザキヤマ： あーサッパリパリパリ。あら潤ちゃん。

西澤： 潤ちゃん。

潤： おーす。

ザキヤマ： 衣明日なら奥にいますと思う。

潤： オッケー。

西澤： (ザキヤマに向かって) あっ、ダスキンの人？

ゲスト： この人が？

ザキヤマ： 今朝また迷子になったんだからあの子。

西澤： お風呂入ったの??

ゲスト： この人が？

潤： 女ってすぐ迷子になるよなあ。

ザキヤマ： 私もすぐ迷子になるう。

潤： ザキヤマは人生に迷ってんだろ。

西澤： ザキヤマ。

ザキヤマ： ねえねえ私ねえ、造花係になったの、お店でお花活けてんの。

潤： すごいじゃん。

ザキヤマ： でしょー！これがなかなか難しく

潤： じゃお前はもう迷ってねえな、ちょっとタイシ。

潤、上手奥から出て行く。

ザキヤマ： ぼっぺー！

西澤： ぼっぺー。

ゲスト： なんだろ、情報過多で、ほんと、テストに受かる自信ない。

西澤： 私も。

ゲスト： あなたも受けるんですか？はっ、もしや大家さんじゃない・・・？

ザキヤマ： あら、いらっしやい。

西澤： ねえ、あなた、ダスキンの人？お手洗いのお掃除してた？しかもお風呂に入っ

ザキヤマ： やあ、ああ、ザキヤマでいっす♡どうも。あんたは？

西澤： 西澤です。

ゲスト： っ？っ？、でいす。

ザキヤマ： こんにちは。何かご用？

ゲスト： あ。テストを。見学テストを。受けます。どうしましてっ？何するんですか

ねっ？何したら良いですか？

ザキヤマ： テスト？よくわかんないけど、うちのバイトの面接だったら、特技披露する
よ。

西澤： 特技披露！ハードル高い！

ゲスト： よくわかんないけど、とまあえすやります。受かりたい。

西澤： 私も。

ザキヤマ： よくわかんないけど。

ゲスト： では。

ザキヤマ： 今っ。

*ゲストの特技披露（1分くらゐ）

途中から、衣明日を探し中の潤がダイニングの入り口付近から覗く。

特技披露が終わると、西澤とザキヤマ、盛大な拍手。

拍手に釣られて、下手奥から西澤の弟で住人のゆうき（20代）がひょこりとダイニングの入り口に顔を出す。

潤： (ゲストに) 良いじゃん。最高じゃん。(ゆゆうきに) おっす。

ゆゆうき： (潤に) Hey. (ザキヤマと西澤に) Hi!

ザキヤマ： はっ。

ゆゆうき： (ゲストに) Good work! (現こっちゃん)

ゲスト： あ、どうも。

西澤： (また知らない男が出てきたので驚きを隠せず) えっえっ。

潤はまた衣明日を探しに行く。ゆづきはキッチンへ。

潤：（去りながら）すー見だ？

⑨(潤)： Nope. (見しなご)

ゆづきは去る。

ゲスト： ありがとうじゃいましたー！

西澤： よくわかないけど、すじい。でも、あの、今の

ザキヤマ： ほんと、よくわかないけど、ありがとうー！

ゲスト： ほんと、なんか、よくわかないけど、さゆのきりました。ありがとうじゃいました。えと、テストの合否のこの連絡お待ちしています。じゃ、失礼します。

ゲスト、そそくせと帰る。

その場に残される、西澤とザキヤマ。

西澤とザキヤマがゲストに気を取られている間に、ゆづきはセットボートルを持ってキッチンから出てきて下手奥へ去る

ザキヤマ： オモローな人だったー。

西澤： 圧倒されました。えっと、さっきの男性

ザキヤマ： で、あんたは？

西澤： あ、私は早速ストラップテストはパスしようかと・・・

ザキヤマ： え〜。

西澤： あの、今日からこのお世話になる西澤です。

ザキヤマ： あぁー親子の？

西澤： はご。

ザキヤマ： お嬢ちゃんは？

西澤： 今、お家を案内して頂いていると思います。

ザキヤマ： そ。じゃ私も見てじゃった。あっちゃん一緒に行くへ？

西澤： あ、いえ、私はこの花ちゃんを待ちますので。あの、おんねの

ザキヤマ： ぼっすー。

西澤： あ、はい。ぼっすー・・・。

ザキヤマ：（去りながら）こねからよろしくね〜！

西澤： あ、はい・・これから？

ザキヤマ、ダイニングを出て下手奥へ去る。

一人残った西澤は、椅子に座り、紅茶を飲み、お菓子を食べる。

♪M3 「不安と不満」

西澤： ここは女性専用のシェアハウス のはず

でも私が見たのは話したのは誰だろう？

潤ちゃん ザキヤマ そしてあの英語

初恋の苗字 ダスキンの人 英語の人

せっかくここに引っ越してきたのに どういうこと？

男はウンザリ 男はめんど

ゆうきが下手奥から玄関へ向かう。途中西澤と目が合い、ゆうきは笑顔で頷き、上手手前へ去る。

①にち： Hey.

西澤： ねえ待って だから誰？あの英語の人は誰？

若いし感じが良いし なんなら可愛いけれど

なんでウロウロしてるの？

ここで一体何をしているの？

まさか住んでるとか言わないでしょ？

だって男はもうウンザリなのよ

西澤： まあウンザリなのは旦那だけじゃ。

紅茶のカップを持ってキッチンへ去る。

入れ違いに、花園が上手奥からダイニングに入ってくる。

花園： ああ疲れた。

花園：

なんでみんなルール守れないのかしら バカなの

食事の時間 共同洗濯機の使い方

トイレの蓋にトイレットペーパーの入れ替え

靴は靴箱に 家賃は月末に

冷蔵庫にしまう自分の食べ物飲み物には名前を人の名前が書いてあるもの

は食べない飲まないルールじゃない

夜中の足音 物音 ドアの音 お風呂の髪の毛

なんでみんなルール守れないの

シェアハウスは全然オシャレじゃない

生活がオシャレなのはテレビの中だけ・・・

他人との共同生活 大変しかない

だけどもんなルール守らない アホなの

私は大家だけど みんなの母親じゃない

終わりの見えない日々

いつまで続くの私の大家族生活

西澤がキッチンから戻って来る。

西澤：

花ちゃんさん。

花園：

あら、随分とお待たせしてしまいました。

西澤：

洗濯機壊れました？

花園：

えっ、どうして？

西澤：

さっきそう聞いたので。

花園：

あらそう？お一人？

西澤：

そうなんですよ、衣明日ちゃんさんがこの案内を買って出てくださったって。

花園：

面倒見が良いんですよ、気がきくっていうか。

西澤：

みたいですね、助かります。あ、でも、優しさに頼っちゃダメですね。

花園：

べつに良いんじゃない？シェアハウスだもの、助け合いよ。

西澤：

はい。

花園：

あっ！忘れてた、今日、日曜？衣明日ちゃんね、ヨガの先生見習いなので、毎

週日曜日の夜に、ここでレッスンをやってくたさってるの、一緒にやろうっ

西澤：

え！ヨガですか？いやあ、やったことないですねえ、どうなんですか？なんか恥

ずかしいなあ、こんな感じですか？（ポーズ）

花園：（上手じゃないけど）上手。

西澤：いや今の嘘ですよね？花ちゃんさんの嘘つき、やだ恥ずかしい、なんかヨガのイメージってインドくみたいな。健康オタクくみたいな感じですよね。

花園：ヨガはオタクじゃないわよ、ヨガのポーズって意味があるんですけど、全てに！凄いやと思わない？意味のないことはないんだって。

西澤：なんか、そういうのってスビリチュアルって感じしますよね。

花園：私は、お清められる感じがするの。

西澤：自分ですか？

花園：なんか、シャンってする。清潔になる感じ。月曜日を迎えるのに、良い感じな気がするの。生まれ変わる感じっていつか。

西澤：そんなにですか？

花園：あっ！それとね、新しい入居者の方が入られたら、全員でパジャマパーティをするのが恒例なのよ、うち。

西澤：パジャマでパーティ？

花園：楽しそうでしょ！

西澤：そうですね。

花園：シエアハウスって、裸の付き合いみたいなものじゃない？

西澤：そうですね？

花園：パジャマでウロウロするし。

西澤：そうですね。

花園：恥は掻き捨てって言うんですよ、だから、最初に恥をかって掻き捨てちゃおう！っていう歓迎パーティなの。

西澤：なるほど。

花園：だから、今夜パジャマで集合してね、6時頃か、11時。

西澤：みなさんパジャマなんですか？

花園：もちろん。パーティでヨガもやっちゃいましょ！

西澤：そうですね！・・・えっと、じゃあ、私ちょっと美味探してきます。

花園：あ、お昼どうする？キッチン使う？

西澤：今日は、散策兼ねて二人で外で食べてきます。

花園：じゃあ、駅からここに来る途中にあった、お蕎麦屋さん、わかるっ？大きな窓の。

西澤：あそこ美味しいから、オススメ。引っ越し蕎麦代わりに。

西澤：ありがとうございます、見てみます。でもちょっとまずは美味を。

花園：じゃあ夕方に。ヨガできるパジャマでいらしてね、6時頃よ、ここね。

西澤：はい、わかりました。じゃあとど。

西澤は美咲を探しに下手奥へ行く。

西澤：ヨガできるパジャマねえ・・・。

花園は鼻歌を歌いながら、テーブルを片付けたり、椅子を整えたり。寝起きの山本がダイニングを通して共用スペースに向かおうとする。

花園：山本さん、洗濯物、カゴに入れといたから。

山本：あ、やばばば。すみません、出してもらっちゃって、ありがとうございます。寝ちゃってました。

花園：あらおはよう。

山本：おはようございます。(伸び)

花園：遠征大変ねえ。

山本：いいえ全然！撮影会は鬼楽しいですよ。毎回思ってますけど、ぼくなんかでも自分で作った衣装着てお化粧してウィッグつけてカラコンつけてやってると、なんかキラキラしてドキドキしてドキドキしてというか、自分が特別な感じがしてやばみっていうか、他のレイヤーさんは別人になれたみたいって言う人多いんですけど。でもぼくは

花園：素敵じゃない。

山本：あ、です、です、です。

花園：今回はなに着たの？

山本：昨日は、スコットランドのお城を復元したとこ行ったんで、やっぱりメアリー・スチュアートですね、クイーン・オブ・スコッツ。死刑で首切られる時も赤いドレス着てたカッコイイ女王。

花園：へえ。

山本：花さんも、趣味っていうか、生き甲斐？外で何かやったらいいの。

花園：私にはここがあるから。だから良いの。

山本：なるほど。あ、今日お天気良いですよね？

花園：良いわよ。

山本：じゃあお庭に干そうかなあ。

山本.. 花さんはいつもウザい

花園.. オタクはいつもウザい

山本.. 全員参加とか愉快が過ぎる

花園.. 自分勝手にもほどがある

山本.. ぼくの自由と権利と尊厳を奪うのか

花園.. コスプレに命かけて自分のことばかり

山本.. ありのまま生きる意味をほくから奪うのか

花園.. バカみたい バカみたい

コーラス.. バカみたい バカみたい

花園.. でも、新しい入居者の方の

山本.. いやそれはそうだと思いますけど、

花園.. じゃあ前向きに考え

山本.. いや前とか後とかじゃ

突然、ゲストが戻ってきてダイニングの入り口付近に立っている。キョ

ロキョロと誰かを探しているようである。

ゲスト.. あのお、お取込み中すみません。

一瞬の間。

花園.. はい？

山本.. (花園に) え誰？

ゲスト.. ？？？です。

花園・山本.. こんにちは、？？？さん。

ゲスト.. こんにちは。

花園・山本.. ？

ゲスト.. あの、伝えておいて欲しいんですけど、駅まで歩きながら考えたんですけど、やっぱり自分の思いは強いんで、前向きに検討してもらいたいなって思って、自分の全力で頑張ったっていう気持ちを伝えてから帰ろうと思って戻ってきました。

廊下から声が聞こえる。

(声) 美咲： ほんっとに楽しかったです。

花園： はい。。。

(声) 衣明日： 良かった〜！

(声) 美咲： 意外と広くてビックリしました。

すっかり仲良くなった衣明日と美咲が話しながら入ってくる。

美咲： 衣明日って、説明上手ですね。

衣明日： 美咲は、褒め上手。

花園： それで？

美咲： え、いやっ全然です、照れます。

衣明日： あ、お客さん？

ゲスト： (花園と山本に) 西澤さんがどんな特技を披露するのかわからないんですけど、でも、負けたくないなって思ってる。はい、それを、伝えて欲しいなって思ってる。はい。テストの結果待ってますって大家さんにお伝えください、じゃ。

ゲスト、キリッと背を向けて潔く帰る。

一瞬の間。

衣明日： え誰？

花園： さあ？

衣明日： 大家さんにお伝えくださいって。

花園： ねえ。

美咲： 西澤さん？

山本： 西澤さんって？

美咲： はい。

山本： え、西澤さん？

美咲： はい。

花園： 新しい入居者さん。

山本： 私の隣？

美咲： 「チューリップ」に住む西澤美咲です。今日からぜひしくお願いします。

衣明日： 親子で入居なんですよ、ね。

山本： 山本です、「タンポポ」です、よろしくです。私、基本昼夜大逆転なんで、大抵夜なべしてるんで、朝の音とか気をつけてくれたら嬉しいですよ。

美咲： あ、はい、わかりました。

衣明日： 子どもじゃないんだから大丈夫ですよ。

山本： よろしくです。

美咲： こちらこそよろしくお願いします。

花園： さて、そろそろお昼の準備しよっと。

山本： 私は洗濯物干して、ちよっと作業してからもう一回寝ます。明日の撮影枠が急遽空いたんで、深夜バスに向けて体力復活戦なのです。

山本、洗濯機がある上手奥へと去る。

花園： 早く干さないと、シワになっちゃうからね〜！

(声) 山本： はい。

花園： あと、今夜の深夜バス、延期考えてよ〜！

(声) 山本： (無視)

美咲： 撮影？芸能人なんですか？

衣明日： まさか。山本さんコスプレしてんの。自分で衣装も作って、他の人の衣装も作ってそれで稼いでるみたい。

美咲： すごい、なんかカッコイイ。

衣明日： 時々衣装がお庭に干されてるよ。どれも煌びやかで恥ずかしくなっちゃうんだよね〜。

花園： わかる。

美咲： (小声で) 私見てみたいです。

衣明日： そのうち見られるよ、派手なのがヒョヒョ〜ってなってるから。

美咲： ヒョヒョ〜

衣明日： ベロベロ〜

花園： 美咲ちゃん、衣明日ちゃんと仲良しじゃない。

美咲： 衣明日が、すごい面白くて、優しいんです。楽しいです。

衣明日： え嬉しい、私そんなこと言われたことない。

美咲： 本当ですか、すごい楽しいです。

衣明日： 美咲ほんと褒め上手、良い子だなあ。

美咲： いや全然です。

花園： ねえ美咲ちゃん、今日のお昼はママと散策がてら外食だって。

衣明日： 良いじゃん！

花園： きっと美味しいお蕎麦よ。

美咲： あ、はい。えと、母はどこですか？

花園： 美咲ちゃん探しに行ったんだけどねえ。

美咲： じゃちょっと見えます。またあとで。

衣明日： あとでね。

花園： 行ってらっしゃーい！

美咲： 行ってきます。(へいひ)

美咲は西澤を探しに下手奥へ去る。

衣明日： またあそこのお蕎麦屋さん勧めたんですか？

花園： ダメ？

衣明日： ダメじゃないけど、職人がイケメンだからでしょう？

花園： な、違います、お蕎麦が本格的で美味しいからです、あんなにモチモチしてるのに噛みごたえがプニプニしてる美味しいお蕎麦をこの辺であんなお安くパクパク頂けるなんて有り難いもの。他にそんなお店あるっないでしょうっそれに、別にイケメンに興味ないです。いや、イケメンは嫌いじゃないけど、イケメンだからって興味があるわけじゃないです。

衣明日： ってことは、興味は、あるんですね？

花園： はい？

衣明日： はい？じゃなくて。

花園： さ、お昼の用意しよう。

衣明日： ってゆうか、独身なんですかね？

花園： そろそろですけど。

衣明日： 花ちゃんじゃなくてあの職人。

花園： はい？

衣明日： はい？じゃなくて。ねえ、今度声かけ

花園、キッチンに向かう。

潤、入ってくる。

潤：ここにいたのか。

衣明日：潤ちゃん。

潤：LINEしたじゃん。

衣明日：あ、ごめん。

花園：いらっしやい。

潤：ちゅーす。また迷子になったんだった？

衣明日：誰が言ってた？どうせザキヤマでしょ。

と、言いながら衣明日はキッチンに潤の飲み物を取りに行く。

花園：そつよ、もうクタクタのハトハトで帰ってきて可哀想だったんだから。

潤：お前はほんつと、なんの為にフニングウオッチ買ってやったと思ってるんだよ。使
いこなせて。

花園：潤ちゃんは心配性ねえ、それも愛かしら？

潤：いやいやいや。

衣明日、飲み物の入ったコップを手に戻って来て、潤に渡す。それを黙
って受け取る潤。

花園：良いわねえ、ヨガが結ぶ愛。

潤：俺ヨガ辞めたんすよ。

花園：えーなんで！

潤：まあ、なんつーか、あのスピッターる感じがねえ、なんか照れ臭いつーか、嘘くさ
いつーか。

衣明日：言うよね。

花園：あら私は好きよ、なんか清々しいし、お清められてる感じがするもの。

潤：塩みたいっすね。

花園：確かに。

潤：花園、じゃなくて花塩（ハナシオ）、みたいな。

花園：やあだ面白い。どうも大家の花塩です。

潤：ウケる。ハナシオってサッカー選手みたいじゃね？オーヤ・ハナツシオ。

衣明日：ぼいぼい、オーヤ・ハナツシオ。ゴールウー！オーレーオレオレオレー！

潤： ウィアザチャーン！

盛り上がる3人。

花園： ねえ、今からお昼の用意するけど、潤ちゃん達も食べる？

潤： え、良いんすか！花さんの飯美味しいからな。

衣明日： いや、それは大丈夫です。

潤： は？お前、花さんがせっかく誘ってくれてんのに断んの？

衣明日： だってルールじゃん。

花園： 気にしないで大丈夫、衣明日ちゃん食べるなら野菜だけにするし。

衣明日： でもルール違反だから。

潤： ルールルールって、お前はルールブックかつって。

花園： じゃあ潤ちゃんはルールブックと付き合ってるってことね。

潤： いやおかしいっしょ、ルールブックとは付き合えないし。ってか、ルールブックと付き合ってもつまんなそ。

花園： あら。

衣明日： でもオーヤ・ハナツシオならルールブックと付き合えるよね。サッカー選手なんだから。

潤： (シラっとして) えどういう意味？

衣明日： だから、サッカー選手にはルールブック、っていうかルールが必要でしょ、必要っていうか、必需品っていうか、

潤： いやそういう真面目な説明はいらなんだよ、なんだよなくお前、そういうことだよ。

衣明日： ……。

花園： 私は感心しちゃった、目の付け所が鋭いなってシャープって思っちゃった。切れ味がシャープーみたいな。

潤： なるほど。

花園： じゃあちよっと待っててね。簡単なものになるけど。

潤： もう全然です、花さんの料理いつもちよっまいんで。ここで微動だにせず待ってますあざっすー！

花園はキッチンへ去る。

潤： ララララッキーランチ♪

衣明日： ねえ、あのさ・・・

潤： うん？

衣明日： やっぱりさ、お昼

潤： まあまあ、良いじゃん、ハナッショが良いっつってんだから。

衣明日： でもお昼は出ないってルールだからさ、知ってるでしょ？

潤： ルールブックはいちいちうるさいなあ。

衣明日： だって、花ちゃんが良くてまさあ、やっぱり、良くないんじゃないかなあって
思うんだよね、こっぴどい。

潤： こっぴどいってなにっ？こっぴどいってなにっ？

衣明日： うん、だってさ、そう言っつて、うん、毎週っ来てるじゃないっ？お昼食へに。

潤： ええっ？そっつかあ？

衣明日： うん、潤ちゃんに会えるのは、めちゃくちゃ嬉しいんだけど、すっごく嬉しい
んだけどさ、でも、毎週言っつてるお昼、ララララッキーランチっつて。

潤： よく覚えてんなあ、記憶力！さすがスビー！

衣明日： ここの人たちにさ、迷惑かけないでくれたら嬉しいなあーっと思って。

潤： なに、怒ってんの？

衣明日： いや全然怒ってはないんだけどさ。

潤： あ、お腹空いてるとか？

衣明日： うん、お腹は空いてるけどわ。

潤： もうすぐお昼来るから、ここで待ってよ、な。

衣明日： な、じゃなくて。

潤： そんなプリプリすんなって。

♪M5 「求めすめぬから」

衣明日： あ、そっだ、今日潤ちゃん家行かれないと思うんだよね、うん。

潤： なんで。

衣明日： 多分パジャマパーティーじゃないかなあって。

潤： なにそれ。

衣明日： 私も引越してきた日にやっつてもらったじゃん、覚えてないっ？

潤： そうだっけ。パジャマパーティーなんて、女子っばいなあ。

衣明日： なんだよ女子っぽいって だって女子やろ

潤： 一緒にうちの断捨離するっつたじゃん。

衣明日： そうだよね言ったよね、でも、うん、また今度でも良い？

衣明日： っつか断捨離とか 一人でやれや

潤： お前が今日って言ったんじゃない

衣明日： 来週の日曜は？

潤： 無理。

衣明日： なんで？

潤： えっと、サッカーの練習。

衣明日： ほんとかよ

潤： なんてお前に合わせんだよ

衣明日： ねえ、それ本当？

潤： は、俺が嘘ついてるっつってんの？

衣明日： だって顔が真っ赤やん

潤： なんて嘘ってバシてんだよ

衣明日： 絶対に嘘やん

潤： お前が俺に合わせろよ

衣明日： まさか、そんなこと言ってるんじやない。

衣明日： 嘘やろ絶対

いやでも嘘かもしれへんけど 約束破ったのは私やし

潤ちゃんが怒るのは 仕方ないよね

怒らせたのは 私やし

潤： 断捨離一人でやるとか 無理 無理 無理

料理も掃除も洗濯もアイロンも

女の仕事 お前の仕事 女の方が上手だし

なのになんで拗らせてんだよ 俺の寝め方が足りないのかよ

潤： だってさ、お前片付けとか掃除とかうまいじゃん、だからやって欲しいんだよ。

衣明日： 一緒にやるんでしょ。

潤： そうだよ、当たり前じゃん、分かってるよ。だから、断われよ、パーティ。な？

衣明日： でも……

潤： でも じゃねえよ

俺が頼んでんだからすく断れよ

衣明日： 今日のパジャマパーティは今日しかないし……

潤： (優しく)俺と過ごす今日だって、今日しかないよ？俺とパーティどっちが大事？

お前が必要なんだよ、こんなこと言わせんなよ。俺は、断捨離しよっぜっ……

衣明日： でも……

潤： (もつと優しく)すー。

衣明日： 「すー」って優しく言われると 私迷ってしまいますー

何が正しいのかわからなくなるのですー

だってだって潤ちゃんが 大すーきでなのですーから

衣明日： じゃあ、どうしたら良いっ……

潤： なんでも聞くなよ。謝れば平気じゃん。だってただの女子会っしょっ女子っつーのもあれだけ。

衣明日： 私が謝る……んだよねっ……

潤： え他に誰が謝んの？

衣明日： うん……

下手奥から西澤親子の声が聞こえる。姿は見えるか見えなにか、くらくら。

(声) 西澤： (カッティング)いいから行きまますよ。

(声) 美味： はあっ……

(声) 西澤： はあっ……じゃなごっしょ。

(声) 美味： ほっ……

(声) 西澤： ほう？でもないでしょ。

(声) 美咲： ふう？

潤： えなにが起きてる？

(声) 西澤： だいたいなんであなたが怒るのよ。なんで私が謝るの？

衣明日： そうなんだよね。

(声) 美咲： はい？

潤： はい？

(声) 西澤： はい？じゃなくて。

衣明日： ごめん。

(声) 美咲： だって。

(声) 西澤： だってなに？

一瞬の間。

(声) 西澤： だってなに？

一瞬の間。

(声) 西澤： (大声で) だってな

(声) 美咲： 聞こえてるよ！

潤： 俺も聞こえた。

衣明日： 私も。

(声) 西澤： 耳が遠いのかと思っちゃっ

潤： 嘘でしょ。

(声) 美咲： もついいよ。

(声) 西澤： よくない、ちゃんと喋ってくれなくちゃわかんないでしょ。

衣明日： そうだよね。

(声) 西澤： え？

潤： え？

(声) 美咲： だって。

西澤、潤、衣明日、固唾を飲んでその先を待つ。

(声) 美咲： だって。ここウロウロしてる男の人たち気持ち悪いって言うから。

潤： え俺？

(声) 西澤： だってそうでしょ、あんな格好して、わよって言う人とか、日本語通じない外人とか。

潤： え俺は？

(声) 西澤： なんのためにここに引っ越してきたと思ってんの？変な男に近づかれない為でしょ、だいたい、なんでそんなことか怒るのよ？

(声) 美咲： もっかしい。

(声) 西澤： まだそれ？じゃあ好きにすれば。ママはお部屋に帰ります。お腹空いても知らないからな。

西澤はダイニングには入ってこず、そのまま自室へ向かう。

美咲は一人でダイニングに入って来て、フランクへ向かう。

衣明日・潤： あ。

といて、二人隠れる。

美咲はフランクを漕ぎながら、

美咲： あーあー。

間。

静かに衣明日が美咲に近付く。

衣明日： 美咲。どうしたの？

美咲： (明るく) あ、どうもしないです。

美咲、黙々とフランクを漕ぐ。衣明日の質問には答えないが、目は合わせない。

衣明日： そっか。

美咲： (明るく) はい。

衣明日： 今、フランクの気分？

美咲： (明るく) まあまあそうです。

衣明日： そっか。

美咲： (明るく) はい。

衣明日： じゃあ、私たちが部屋行くね。

潤： え？

衣明日： いつでも話聞くからね。

美咲： え、あ、はい。

衣明日： まあ、話したくなったら、で。潤ちゃん、行く。

潤： おま、だって花さんが

衣明日： 早く。

潤： 早く、じゃねえし。

衣明日： ごめんね、でも行く。

潤： 命令すんなし。

衣明日： (思わず) 命令じゃねえし。

潤： はあ？おま、誰に向かって

美咲： 衣明日、あの、ありがとうごさいます。

衣明日： ううん。まあ、でも、ちゃんとかわかんないこともあるのかもしれないなあって思ったよ。

美咲： ・・はい。

衣明日： いや、私が、だよ、私がそう思ったの。

潤： お前なに言ってるの？

衣明日： ほんと、なんだろうね？じゃあ、あつね。

美咲： はい。

衣明日： 潤ちゃん、行くう。(小声で) 一人にしてあげようよ。

潤： てか、俺まぢで腹減ってんだけど。

衣明日： そうだよな、ごめんね。でもとりあえず、部屋行って良い？

衣明日と潤、下手奥へ向かう。

潤： え〜まぢで〜。

美咲： あの、私、

衣明日： いいのいいの、フランク漕いでて、なんかごめんね。(潤に) ごめんね、あとでお風呂食べに行こうね。

一瞬の間。

美咲： え？

花園： まだからかひ。

ゆづき： I said, shush. (黙って喋らないで)

美咲： じゃぁ・・・じゃぁ。

ゆづき： Yeah! That. s rughti (ノーノーじゃあー)

花園： ぐんぐん、シヤミンナ。

美咲： 車？

ゆづき： (首を横に振る) Nope. (違う)

美咲： 歌手？

ゆづき： (首を横に振る) Nope. (違う)

美咲： 握手？

ゆづき： (握手する) Yeaah. (ノーノー)

美咲： (意味がわからず) 花ちゃん。

花園： 美咲ちゃんを怖がらせないちょうだい。

ゆづき： (肩をすくめる)

花園： 新しい同居者さんの西澤美咲ちゃん。

ゆづき： Ahhh!!!! Welcome to A TOPSTARI (ああああーちんじゅ、ア・トップ

スター！)

美咲： お、おお？！

花園： ランチ？

ゆづき： Yup. (うん)

花園： キッチンに置いといて。

ゆづき： Ok, thanks. (おっかー)

ゆづき、キッチンへ去る。

花園： ごめんねえ、怖かったよねえ、大丈夫？

美咲： はい。

花園： (小声で) 私の弟のゆづき。

美咲： えっ！だって、英語！

花園：そ、あの子は父親と一緒にアメリカで育って、大学を機に日本に戻ってきて、今はこの離れに住んでるの。

美咲：カッコイイ。

花園：私は、母親と一緒にずっとここ。

美咲：え、花ちゃんたちミックス？

花園：ミックスって？

美咲：お父さんがアメリカ人で、お母さんが日本人っていう

花園：あ、ハーフってこと？

美咲：あそうです。

花園：まさか。そう見える？

美咲：え、いや、どうですかね？

花園：どうですかねって。さっきのシャッシュって、「黙れ」って意味なんだって。

美咲：へえ、なんかカッコイイ、シャッシュ。

花園：ね、どうだった、お蕎麦屋さん？

美咲：お蕎麦屋さん？

花園：お蕎麦食べてきたんじゃないの？

美咲：いいえ。

花園：なんだから、あそこのお蕎麦美味しいのに。あ、ねえ、今夜ね、パジャマパーティーがあるの、ここで、歓迎パーティ。

美咲：歓迎？私たちのですか？

花園：そう！

美咲：えっ。

花園：どう？

美咲：え、嬉しいです。

花園：ほんと？良かった！

美咲：でも、なんか悪くないんですか。みなさんに。

花園：とんでもない、新しい入居者の方はいつも歓迎してるの、恒例行事。

美咲：へえ、面白いですね。でもパジャマ・・・私可愛いの持ってないです。

花園：可愛くなくたって良いじゃない、それに、美咲ちゃんが着てたらなんだって可愛
いから大丈夫。

美咲：いやそれはないですけど。

花園：あるある。なんなら、パジャマじゃなくても良いからね、これはパジャマですって美咲ちゃん言えば、それはパジャマになる。

美咲… なりますっ？

花園… なるなる。私だって、今日はヨガの格好でパーティに参加するんだから。

美咲… これはパジャマです、って言ってる？

花園… そう。

美咲… 面白いですね。

花園… でしょ？言ったもん勝ち。私はシーンスを履いて寝ますそれが私のパジャマですなにか？って言っても良いと思わない？その人にとって、それがパジャマなら。良いと思います、寝てくくくとは思っけ。でも、ってことは、あの、いわゆる「パジャマ」で寝なくても良いってことですよね。

花園… 賢い。そういうこと、パジャマの概念なんて他の人に関係ないもの。だいたいね、みんな一々余計なお世話なのよ、それはパジャマじゃない、とか、パジャマとはこういうものだ、とか。結婚はいつするんだ、とか、しないのか、とか、本当うるさい。それに、世の中ね、決まりとかルールが多過ぎる。

美咲… 校則とか？

花園… 校則？

美咲… 学校の。スカートの長さとか髪は染めちゃダメ、とかそういうことです。

花園… そっそっ！校則なんて丸めてポイ！髪染めたって良いじゃないねえ？周りは困らないわよ、本人の髪が痛んで困るくらいでしょ。

美咲… 花ちゃんそんなこと言っんですね。ウケる。

花園… ウケるでしょ。

美咲… ウケる。真面目そうなのに。

花園… 真面目よ。

美咲… 髪染めても良いって言う人がですか？

花園… 髪の色なんて好きにしたら良いのよ、赤く染めたってグシない人はグシないんだから。自分で考えて決めて行動したら良いと思うの、主体性よ。

美咲… 花ちゃんってそんなこと考えてるんですね。見えない。

花園… 人は見かけによらないってこと。私だって染めてたんだから。

美咲… えっ！茶髪？

花園… 金髪。

美咲… 金髪！

花園… 似合ってたわよ。学校にいる？金髪の人。

美咲… うちの学校にはいません。

花園… あ、お嬢様学校だからだ。

美咲： 花ちゃんって真面目そうに見えるけど、真面目じゃないんだ。

花園： 私は大真面目です。

美咲： ママが聞いたら驚くと思います。

花園： あらそう？この他の人たち、みんな勝手よ。

美咲： 主体性って勝手ってことですか？

花園： まあ、似てるわよねえ、紙一重？裏表？表裏？

上手奥の共用スペースの方から山本の声が聞こえる。

(声) 山本： 花さーんっ、花さーんっ、下着、ぼくのパンツが

山本がダイニングに駆け込んでくる。

山本： なくなってる。

一瞬の間。

花園・美咲： えー！

花園： どうしてだよ？

山本： ぼくのパンツがなくなってるー！

花園： どこかに落としたってこと？

山本： さっき、お庭で洗濯物干してて、でも下着はいつも通り部屋に干すつもりで、カゴ見たら、パンツが一枚なくなってた。

花園・美咲： えー！

(声) ゆっき： (キッチンから) えー！ーOh my God! (おは！)

キッチンからゆっきが走り出てくる。

♪M6 「パンツの疑い」

花園： 本当にゆっきが見た？カゴの中よ！見た？

山本： ぼく信じられてないですか？

山本： カゴも洗濯機の周りもお庭も廊下も自分の部屋も確認しました。ただ、洗濯機は今誰かが使ってるから、中は確認できてないです。

花園： 今使ってるのは衣明日ちゃんね。

山本： なるほど。

ゆいお： You might, ve just lost it. (カゴが「落」っただけだよね)

花園： でも私、洗濯物ちゃんと全部出してカゴに入れたと思うのよ、おパンツも。

ゆいお： Opan-two. (オジャン・トゥ)

美咲： おぴゃ・・・

花園： オジャントゥウ。

山本： オジャントゥウってなにをいってますか？

山本： どう行ったんだと思います、ほくのパンツ。

花園： どうか？

山本： それを聞いたんですけども？

山本： 落っしたんですかね。

花園： そっじゃなく。

山本： どうしたんですかね。

花園： 落っしたんじゃない。

花園： って私今同じように回ったわね？

花園： どういう意味？

山本： どうやって、なくなったんですかね、ほくのパンツ。

美咲： ユンサントゥ。

ゆいお： What, s' how? (「ユンサントゥ」って)

花園： ねえ、どなたがおパンツ？

山本： フロール。ブラとセット。

花園： 素敵。何色？

山本： 赤。

花園： 赤の上ト！

ゆづき： SEXY! (セクシー！)

美咲： 大人！

花園： ほんと素敵。

山本： ぼく、溶けてなると聞きました。

花園： どういう意味？

美咲： どういう意味？

ゆづき： What do you mean? (どういう意味？)

山本： 今日誰かお客さん来ました。

花園： 特じ。

花園： どういう意味？

美咲： どういう意味？

ゆづき： What do you mean? (どういう意味？)

花園： あ、ふふふふとっしう、テストの結果を待ってるって方が。

花園： あれは誰だったの？

美咲： どういう意味？

ゆづき： Who the hell was that? (あれは誰だったの？)

山本： だって、まじ溶けてなると聞いたよ、じつさってなくなるよとか。

美咲： 待って この話は

花園： え、まじなふふふふんが

美咲： とうとう向かってるのっ

山本： あの人は来ました？森出さんの彼氏の、ゆづりん子食へに来る

美咲： (カッターイン)あ、みんなを探しませんか、山本さんの、お、ロ、パン、ッ。
ッ。

花園： そっね。

ゆづり： Yeah, that, s a good idea. (ゆるんだな、ゆるんごめん)

美咲： きことうじかこ落ちし

花園： じゃあ、私洗濯機周の見て

ゆづり： I, m going to (兼は)

山本： ちみこご待っててたわご。

花園： なごっ。

山本： (美咲に)聞こつまつたご、ほっ、「ほっ、落ごごつなごご聞ごごつたご」ごっごっご
たごごごごごご。

花園： そっね、言つてたわね。

ゆづり： Yeah, you said that. (ゆるんだな、聞いてたな)

美咲： はご。

山本： しまごっ。

花園： しまごっ。

山本： ほっほ、

花園： あなたは、

山本： 落ごごっ、

花園： 落ごごっ、

山本： なごご

花園： なごご

ゆづり： Night. (ナイト)

山本： 思ひ。

花園： んです。ごっごごごごのよねっ。

山本： はご。

美咲： はご。

山本： しまごっ。

花園： あなたは、落として、ナイトッ

美咲： あ、の、でも、落としたかもしれな

山本： ねぇ。

ゆづき： Yeah, you never know. (確かに)

美咲： もっかっただろ、じゃあ、じゃあ。

ゆづき： Yeah, you didn't try to find it hard enough. (一生懸命探っとなんかじゃなさい)

美咲： だから、やっぱさ、みんなさ。

ゆづき： Yeah, you, re right. (なんだね、そうじゃない)

山本： ちょっと黙って英語の人、ハーフだか帰国だか知らないけど。

ゆづき： Uh^uhh. (おんやんや)

花園： ねぇ、山本さん。

山本： ほくが言ったこと、聞いてたんだよね？

美咲： はい。

山本： じゃあ、なんで信じないの？通じてない？答えて、はい、中学生の人。

ゆづき： She, s so mean. (意地悪だよね)

美咲： えっ、信じてないわけじゃ

花園： やあだ、ねぇ、なあに、もう、やめましょ、こっこの。美咲ちゃんは今日入居したばかりだし、まだ子どもなんだし、

美咲： 子どもじゃありません。

山本： 子どもでござい。

花園： わからないことばかりなんだから。ね、みんなで探したら良いじゃない。真っ赤なおジャンパー。

ゆづき： Yes.

山本： そっぴすね。

花園： そっぴ。

山本： 探しまじょうか。

花園： そっぴそっぴ。

山本： 犯人。

静寂。

花園・美咲・ゆづき、集まる。

花園： いやいやいやいや。

美咲： 今なんて言いました？

ゆいね： A oriminal. (クリミナル／犯罪・犯人)

美咲： クリ

花園： クリミナルマインド。

ゆいね： What? (何?)

花園： 犯人って言ったでしょ。

美咲： 聞こえてるじゃないですか。

花園： 聞こえてはいるわよ、でもまなか、と思って。だって、犯人って。なんか、急にサスペンスみたいになっちゃって、なんか、おかしくない? (笑)

山本： なに笑ってるんですか?

静寂。

花園： だって、「ア・トップスター」で「犯人」って宝塚の演目みたいじゃない、もしくは、トップスターの人が犯人、みたいな、想像してみよ、なんか、おかしくない? (笑)

美咲とゆいね、想像する。

ゆいね： Right, it sounds funny. (笑) (確かに、なんかおかしいね)

美咲： 私めくわかんないです、でもなんかおかしいのかも。(笑)

花園： きっとこんな感じよ、「(男役の真似で)俺が稀代の怪盗アルサー又だ、30万カラムットのダイヤの指輪は頂ごっせ、この美女と一緒にな。はっ)マントをバサッ(と翻訳)」♪ちびゅーちびゅーちびゅー
宝塚好き〜!

花園・ゆいね・美咲、笑う。山本もちょっと笑っちゃう。

ザキヤマ、下手奥から入ってくる。

ザキヤマ： どしたどした、なに笑ってんの楽しそうじゃない。(山本に)あんた半笑いじゃない、相変わらず地味な笑顔ね。

ちょっと気まずくなった山本は、ダイニングを出て行く。

ザキヤマ： あら、なあに、機嫌損ねちゃった？生理ちゃん？

ザキヤマの「生理ちゃん？」に反応する美咲。自分が生理だからではな
い、その発言がセクハラだからではない。

美咲： （小声で）うやうやうやうや。

ゆっき： （美咲に）Are you alright? （大丈夫？）

花園： 大丈夫？

美咲： はう。

ザキヤマ： なに、なんかあったの？

美咲： いえ、特に。

花園： ザキちゃん、どうしたの、なにか御用？

ザキヤマ： だって、もうすぐ5時じゃない、買出しの時間じゃ。

花園： もうそんな時間ーあらあらー！

花園、急いでキッチンへ行き、小さなポシエットとエコバッグを持って
戻ってくる。

ザキヤマ： ぽっぴたの？

ゆっき： Seems like that. （なるほどね）

花園： じゃあちんこ行っつゝるわね、ゆっき飾のしつこくすっ、さっぴああー

ザキヤマ： さっぴああー

ゆっき： Okay, bye! （さっぴああー）

美咲： 行っつゝらっつゝー！

花園とザキヤマ、買出しに出かける、ゆっきと美咲、二人っきり。
ゆっきは上手奥へ去る。

美咲： っつか、やば。なにさっきの人、あたまおかしいんだけど。っつか、歯出てんだ
けど。ロスプしかっけえって思ったのに、ちよー怖かったんだけど。っつかにもい
んのかヤバい奴、めんど。っつゆっか、生理ちゃんとかセクハラっつゝ、キマ。

ゆっき、飾りつけの道具が入っている箱を持って戻ってくる。箱から

潤： お、盛り上がりですね。

ゆいお： Hi, Jun-chan. (ハイ、潤ちゃん)

潤： ハロー。なにじな、ジュンだの。

ゆいお： For her welcome pajama party. (美咲ちゃんの歓迎パジャマパーティーの巻)

潤： あ、女子会か。

ゆいお： No, it's not for girls, 'cuz I'm gonna join. (違うよ、女の子だけじゃなく、だって僕も参加するから)

潤： パジャマパーティーなんて、楽しそっだなあ。(美咲に)ね。

美咲： あ、はい。嬉しそう。

ゆいお： Oh, you two, we met already? (あれ、もう二人会ったんだ?)

潤： 腹減ったんだなあ。

ゆいお、潤はキッチンへ。

(声) 潤： 食べかけの蕎麦あんじゃー!

ゆいお： Ooops, that's mine, I totally forgot about it. (お、ゆいお、そは僕のだよ、完全に忘れてた)

ゆいお、ゆいおもキッチンへ。

(声) 潤： こっちの俺らの? 伸びちゃってんなあ、なんだよ花さん。これ食べて良いのかな、ダメか? あ〜。

ゆいおしながら、ダイニングに戻っていく。

短い間。

美咲： (気を遣って話しかけて) お腹空いてるんですか?

潤： うん、だって、食べ損ねたから、さっか。

美咲： あ、・・・ちうません。

潤： 美咲ちゃん、だっけ? あのとどうしたの? (西澤のマネで)「お腹空いてもママは知らないからね!」ぶんぶん、っ。

美咲： あ、実は私も食べてないんです、色々あって。

潤： なに、じゃ腹減ってんの？

美咲： まあ、はい。

潤： あの蕎麦食べるの伸びるんだよ。

と書いて、潤はキッチンへ。

美咲： いや、え、だって勝手に

(声) 潤： ああっ！っただよー！

美咲： むっ！っただよっただよっ！

と、美咲もキッチンへ。

(声) ④いね： What what what? (なになになに)

(声) 潤： 捨っばっ！っただよっ！っ！っ！っ！

(声) ④いね： Eh? You wanted to eat this? Seriously? (えっ！っ！っ！っ！っ！っ！っ！)

潤と美咲、ダイニングに戻って来る。

潤： 腹減ったなあ。あ、なんか作れる？

美咲： 私ですか？

潤： そうだね、他に誰かいる？

美咲： ええと・・・(キッチンを振り返って) ④いねさん？

潤： 女子力必死だよ。

ゆうき、パーティ用に飲み物とロッピーを持って、ダイニングに戻って来る。
No。

④いね： What? (なに)

潤： お前料理はね？

④いね： Yes, of course. I, m a very good cook. (もちろん。めっちゃ上手だよ)

潤： だってお前外人だもんなあ、男でも料理できるよなあ。

Φ(η)お： Because that. s ife. (だっしそむが人生だから)

潤： じゃあむ、なんか作っすよ、俺のじよ。

美咲： えっ。

Φ(η)お： ME? (驚く)

潤： っー。

Φ(η)お： NOW? (今)

潤： っー。

Φ(η)お： No way. First of all, we. re gonna have a party in an hour, welll. m not sure if you. re inviterd or not , and second of all, l. m not your mother. Got it? (うむだよ。だっし、まあ第一、一時間後じよパーティが始まる。まぢんときみが招待をたてるかは知らなっすよ。第二、僕はきみのフレンドだよ)

潤： え全然わかんなっすむなんかおげえめんじゆいな感じになっすよのぢわかな。

Φ(η)お： Good. (良なり)

Φ(η)お、飾りつけの続きを始める。

美咲： あの、すみません、衣明日はどっしましたか？

潤： なんか、勉強みたいなのっしよ。

美咲： 勉強、日曜日っしよ。

潤： そ、あいつまんねえんだよ。

美咲、Φ(η)おの飾りつけの手伝いを再び始める。潤は iPhone をじろだす。

一瞬誰も喋らなっす。

美咲： (潤じよ) あの、

潤： なっしよ。

美咲： じよに住むじよのっすぢわぢわぢわ。

潤： 俺が？

美咲： ぢよ。

Φ(η)お： He doesn. t. (住むぢわぢわ)

潤： まぢか。だっしじよぢわぢわぢわ。

美咲： でも、なんか普通にしゃべってる感じなので。

潤： え、くしろくしろぢやダメ？

美咲： じゃダメとかじゃなく、しゃべってるなーっ。

潤： だって、衣明日が相手してくねんだもな。

MM 「私になにも知らない」

潤： じゃあさ、おじさんと喋りつよっか。

と言いつつ、潤がおもむろに美咲の隣に、初対面とは思えない近所で座りつゝぬ。

体が微かに緊張する美咲。

美咲： えっ

潤： おうそっつよっ。そっちなあ、学校のいっしょか？つまんねえか、あ、じゃあ恋バナはっ中学生だっけ、彼氏いるの？

ゆいね： Eew. (美咲に) You don. I have to talk to him. (おえ。話やなっつ良
ごも)

美咲： えっ

衣明日、右手奥からタイミングに入ろうとして、廊下にとどまる。潤が未成年の美咲に対して奇妙な距離感で気軽に話しかけているのが見え、躊躇いつつまへ。

潤・美咲・ゆいねは衣明日に気がつかない。

潤： いるか。可愛いもんな。スタイル良っ。

ゆいね： (潤に) Hey, you stop it, idiot. (なつこっつよ、変態)

美咲： えなにこれ？

潤： 今の若さっつよっ。何んか何んかのマークとかプリントとか？古いか。え教えて

よ。

④いね： Hey, Mister. (おやこじ)

潤： なじ怒こしてたよ。

④いね： Because it's not an appropriate topic. (なやめい、なやむこじとじいん
くじやなごかた)

潤： ただの楽しい恋バナじゃ。

④いね： to talk with a teenage girl. (十代の女の子の話のこ)

潤： なになになに、俺そんな変なこと聞いたことねえ。

美咲： えむうじょう。

潤： だって別にこの子に興味ないよ、当たり前じゃん、ただの雑談だよ。年の差過ぎだ
し、未成年なんて犯罪じゃん、俺ロリコンじゃねえし。お前大丈夫？

④いね： Leave her alone. (彼女をほこじこ)

ゆうきは美咲に近寄り、小声で声をかける。小さく頷く美咲。そして、
ゆうきは美咲を潤から離れたフランクへ連れて行く。

衣明日： 聞きたくなかった こんな会話

お前こそ 大丈夫かよ？

中学生に声かけるお前

大人に声かけられてるお前

英語で抗議続けるお前

それを見てどうしていいかわからないお前

聞かなかった 見なかった 気づかなかった

私はなにも なにも 知らない

潤： ほら、黙っちゃったじゃね。なんだよ、彼氏の話くらい聞かなくてかっこいいの？同
じ中学生のえいじゃあや、俺の恋バナ聞くと面白いの？はああるからあ、すーじゃ
なうてね、あつのはそそな面白くなごから、なごじい。

④いね： Shut up. (黙こたや)

潤： 盛ごたなぶや、うっせうかや、今度

④いね： Please! (静かになご)

美咲： (小声で) キモ・・あの、キモ・・い、です・・よね・・おじ・・。
ゆづき： (ほほフィスパーで) Wow. (Lr)

一瞬の静けさ。

潤： はっ。

美咲： (小声で) いやえっや、

潤： うん？今なんだった？よく聞こえなかった、もう一回言ってみよ。

美咲： (小声で) あの、キモい・・

衣明日が入ってくる。

衣明日： あれ、みんなここにいたんだ？

潤、ゆづき、美咲、衣明日を振り返り、固まる。が、なにもしなかったか
のちに、

ゆづき： Yeah, we are here. (NwNJJJJJたんだよ)

衣明日： 飾りつけ、いっしょじゃん。ゆづきさんさっただの。

ゆづき： Yup, Misaki-chan helped me. (んん、美咲ちゃんが手伝ってくれた)

衣明日： 美咲手伝ったんだ、偉いじゃん、言ってくれたら私もやったのだ。

美咲： 誘えば良かったですね。

潤： 声かけてみてよ、って俺は言ったんだよ。

衣明日： そうなんだー。

潤： でもお前、なんか真面目にやってたじゃん。

衣明日： 資格試験の勉強ね。

潤： ああ。

衣明日： じゃあ潤ちゃんはじじで何してたの？

潤： 俺は、二人を見守ってた。

ゆづき： Liar. (嘘つき)

衣明日： 誰が？

潤： 俺が。

衣明日： 俺が、嘘つきなの？

Φ(ﾝ)お： Oopsy. (おんうんう)

潤： え何言ってるの？なんの話？俺が、二人を見守ってたって言ったんだよ。

Φ(ﾝ)お： Uh-huh. (ほーほー)

衣明日： じゃ今Φ(ﾝ)おが、嘘しき、っ。

Φ(ﾝ)お： Fuck. (おちおちおち)

潤： はっなんで俺が嘘しつんだよ。

衣明日： わかんないけど。

潤： お前や、俺とその外人とどっち信じんだよ？

衣明日： それは・・・

潤： (優(っ))な。

衣明日： ……。

潤： よう、じゃあ、もう今日は帰る。

衣明日： え。

潤： っつうかご飯食へに行じ。(美咲とゆ(き))悪いな、その集まりに参加できいな。

Φ(ﾝ)お： Don. tbe sorry, you. re not invited. (奴(っ)な(っ))、だ(っ)っ(き)め(お)招

待たれてな(っ)っ(お)

美咲： (衣明日(っ))衣明日は。

潤： 一緒に帰るよもちろ。

美咲： パジャマパーティ参加しないの。

潤： じゃめな。 (優(っ))何が、出掛ける用意(っ)っ(お)、すー。

衣明日： ああ、う。

美咲： ええー、

Φ(ﾝ)お： Misaki-chan. (美咲ちゃん)

潤： まだ今度な。

美咲： しまんないの。

潤： だから言ったじゃん、衣明日はしまんねえんだっ。

Φ(ﾝ)お： It's not her lasu (ん(っ)は衣明日(っ))

美咲： 別に衣明日がしまんねえわけじゃなくない。

短(っ)問。

Φ(ﾝ)お： (口(っ)) Phewl (う(っ)ー)

潤： 今なんだった？

衣明日： 潤ちゃん。

美咲： 別に衣明日がしまんねえわけじゃなくない？

ゆいね： She repeated it. (繰り返した)

潤： 今繰り返した？

衣明日： 潤ちゃん。

美咲： 「今なんだった？」って聞かれたから、「別に衣明日がしまんねえわけじゃなくない。」って繰り返しました。

ゆいね： What happened to her. (彼女が何したの？)

衣明日： 美咲が何したの？

潤： おお、なんだこれ、え、なに、歯向かってんの、中学生が？俺に？まぢか。

美咲： 歯向かってるの？はなべて、聞かれたことには答えただけです。

ゆいね： She, s right. (正しい)

衣明日： 確か？

潤： そね、すげえ口答えだなあ、やるじゃな。

ゆいね： He, s praising her! (褒めてる！)

衣明日： 褒めてるの？

潤： 褒めてはいるが。でも、それなんだっけ？なに？反抗してんだっけ？

ゆいね： You should stop him. (止めて)

衣明日： 出来なごよ。

ゆいね： Why? (なぜ？)

潤： ーか、そめそめ今なまをいじやになじやになつてんだ？

美咲： あなたが、衣明日のことをします

潤： まじでもーや、(衣明日)に行い。

一瞬動かない衣明日。

全員が衣明日の様子を見ている。

潤： すー。

衣明日は居心地が悪くない。

衣明日： ……うん。

と言って、ダイニングから出て行くとする。

美咲： ちょっと待っ

玄関のドアが開いて、賑やかな声が聞こえてくる。

スーツケースを持った山本がダイニングに入ってくる。ダイニングのザラついた空気は察するが、無視して玄関に向かう。

(声) ザキヤマ： だって全然イケメンじゃなかったじゃんよ、あの職人。爆笑。

(声) 花園： もうちょっとイケメンだと思ってただけどなあ。

(声) ザキヤマ： 記憶。嘘でしょ、もつ天と地、雲と泥。あんたの目ん玉、曇りガラス。

(声) 花園： 老眼かしら。

荷物を両手に持ったザキヤマが、上手手前から先にダイニングに入ってくる。

ザキヤマ： おかしいでしょ、老眼って手元が見え無い

まだ玄関にいる花園が山本を見つけて、

(声) 花園： あら、お出かけ？

ザキヤマ： なにみんな揃っちゃって。

(声) 花園： もつすぐ始めるから、早く帰ってきてね。

(声) 山本： 今から遠征行ってきます。

ザキヤマ： どうした

(声) 花園： えええー！ー！ー！ー！ー！

(声) 山本： 声デカ。

ゆうきとザキヤマ、様子を見に玄関へ。潤と衣明日と美咲は動かない。

(声) ザキヤマ： 声デカ。

(声) ゆづね: What happened? (アハハ)だGe.)

動かない潤と衣明日を見て、美咲も玄関へ向かう。

(声) 花園: 山本さんが、遠征に行くって言うの。

(声) ザキヤマ: だってあんた、これからパーティじゃない。

(声) 山本: でも憧れのアフアマさまの撮影会の最後の枠取れたから。アフアマさまは、
ほくの大好きが過ぎるシューヤーさまなんですけど、即売だったのに、これ、
ほんと、鬼ラッキーなんで。アフアマさんは、私の神で命の恩人だから。」推
しは推せる時に推せ」

(声) ザキヤマ・ゆづき・美咲: (納得して) ああああなるほど。

衣明日: 潤ちゃん。

(声) ザキヤマ: わかりみ。

(声) 美咲: ですね。

(声) ゆづき: Yeah.

衣明日: 潤ちゃん。

(声) 花園: でも、パジャマパーティは全員参加っていうルールだし。

(声) 山本: それは知ってますけど。

(声) 花園: じゃあ、ねえ?

(ザキヤマ・ゆづき・美咲に) ねえ?

衣明日: ねえ。

(声) ザキヤマ: でも相手が神じゃねえ。

(声) ゆづき: Yeah. (だねえ)

(声) 美咲: 命の恩人ですし。

(声) 山本: わかってっついで。

衣明日: 聞いてる。

(声) ザキヤマ: (同時に) わかる。

(声) ゆづき: (同時に) yes.

(声) 美咲: (同時に) わかります。

(声) 花園: わからない!

潤: 聞こえない。

(声) 山本: わかるでしょー!

衣明日: 聞こえてるでしょー!

(声) ザキヤマ・ゆうき・美咲： 聞こえてる！

衣明日： なんて無視すんの？

(声) 花園： じゃあ仕方ないってこと？

潤： どう思ってる？

(声) ザキヤマ： ね、とりあえずあっちで話せ。

(声) 山本： いやでも私は

ザキヤマが花園と山本を連れてダイニングに戻り、二人を座らせせる。

ゆうきと美咲が続く。

衣明日と潤の気まずさは誰も気づかない、美咲以外は。

花園： どうしても行くの？

山本： だってここから一緒に住むんだから、良くなさそうですか？

花園： でも入居日は一週間しかないでしょ。みんなで歓迎したいじゃない。

山本： いや私は別じゃ。

園(お)： That, s not nice. (感) 悪くないよ？)

ザキヤマ： ちよこと言ってる方。

美咲： あ、いえ、私のじゃあ、

園(お)： Hey, sis, you let her go. (お) 行かなくていい)

花園： じゃあ。

園(お)： She obviously doesn't wanna share the time with us and misaki-chan. (だ) っし明なかに嫌だわよ美咲ちゃん、時間シェアしたくないんだろ)

山本： ちよこ。ねえ、英語でなんですか、disってなんですか？

ザキヤマ： だから言う方。

山本： だってそっでしょ、みんなも思ってるでしょ、前から思ってたんですけど、英語出来るのそんなに偉いんですか、私たちが分からないからっていつだって英語でピーチクパーチク。

園(お)： I, m not saying ピーチクパーチク at all, missy. (ピーチクパーチクなんて言いません、お嬢ちゃん)

山本： ほらーピーチクパーチクって、しかも日本語じゃないー！

園(お)： cuz ピーチクパーチク is a Japanese word! (だ) っし、ピーチクパーチクは日本語だからー！)

山本： ほら、シヤパニーズビッチって！

ゆづき： I didn't say that! (言っじゃないよ！)

山本： イエス！

ゆづき： NO! (ノー！)

ザキヤマ： なにこれ。

花園： 二人とも！

美咲： みなさん。

山本： 今日の歓迎会は不参加でいーす！

衣明日： 潤ちゃん！

花園： どうして！

潤： うるさいなあ！

上半身に体の線がわかるタイトなヨガウエア風なものを着て、下半身は
パジャマを着た西澤が下手奥から元気に登場。

西澤： (ほぼ同時に) じゃじゃーん！ヨガじゃーん！

山本： (ほぼ同時に) ここにパンツ泥棒がいるからです！

一瞬の間。

♪M8 「ヨガパンツ泥棒じゃん」

西澤： え今なんて？

衣明日： え今なんて？

ザキヤマ： えなんの話？

衣明日： ヨガじゃん？

西澤： パンツ泥棒じゃん？

ザキヤマ： ヨガパンツ泥棒じゃん？

美咲： え待って待って。

花園： え今なんて？

ザキヤマ： 「ヨガパンツ泥棒じゃん」

衣明日： えなんの話？

ザキヤマ：「ヨガパンツ泥棒じゃん」？

花園：言った言った。

美咲：言ったよね？

衣明日：でもそんなこと言った？

西澤：言っていない。

花園：言った。

ゆうき：混ぜてない？

西澤：そんなこと私言っていない。え・言った？

山本：ぼくは言っていない。

花園：じゃあ聞き間違い？

衣明日：どちらか嘘をついている？

ザキヤマ：「ヨガパンツ泥棒じゃん」って？

美咲：え待って待って。

花園：え今なんの話？

ザキヤマ：「ヨガパンツ泥棒じゃん」？

衣明日：えだからなんの話？

ザキヤマ：「ヨガパンツ泥棒じゃん」って。

西澤：えなんの話？

山本：泥棒の話？

花園：え？

美咲：ヨガパンツの話？

西澤：あれ。

ザキヤマ：えだから、ヨガパンツの泥棒の話じゃんって。

潤：泥棒の話ってなに？

山本：（攻撃的に）はい？

潤：え待って待って待って。

山本：え今なんて？

潤：っていうか、泥棒の話ってなに？

山本：えなにこいつ？泥棒のくせに。

潤：だから、泥棒の話ってなに？って。

山本： (攻撃的に) だから、はい？って。
衣明日： (山本に) えどうしたの？
山本： (潤に) 言っていていいですか？
潤： えなんの話？
美咲： (唐突に) ねえママなんでそんな格好してんの？
ゆづき： Suddenly. (突然に)
衣明日： 突然に。
西澤： ああ、衣明日さんのヨガのレッスンを誘われたの。どう？
衣明日： え、素敵です！
西澤： まあ恥ずかしい。
花園： やる気ね！
潤： とても子持ちには見えないっすね。美魔女。
ザキヤマ： BMJ。
西澤： あれ恥ずかしい。
衣明日： ちよっと。
潤： 美熟女。
ザキヤマ： BJJ。
西澤： やだ恥ずかしい。
衣明日： ねえ。
潤： 褒めてんじやん。
西澤： 褒められたわ。
美咲： 褒められたの？
衣明日： 潤ちゃん。
ザキヤマ： JJ。
山本： それ女子中学生じゃん。
美咲： 私？
潤： なんならヒロイ。
ゆづき： Ewi. (ゼロ)
西澤： 勇気出したんです。
衣明日： 潤ちゃ
潤： 冗談だっ
美咲： こっゆつかまがむでキシヨイ。

一瞬の間。

花園・西澤・衣明日・ザキヤマ・山本：（息を飲んで）はっ！
ゆいせ： Wow. (フオ、再び)

ざわつく大人たち。

西澤： 誰々、誰がキショイの。

山本： （ザキヤマに）あんたでしょ。

ザキヤマ： ええ〜。

衣明日： 美咲。

花園： どうしよう。

山本： （潤に）いやあんたか。

潤： ええ〜。

美咲： だってさっきも言いましたよね？

花園： さっき？

西澤： 誰々、誰がキショイの。

美咲： おじさん。

ザキヤマ： え〜。

美咲： いやあんたじゃない。

ザキヤマ： 良かったら、私おじさんじゃなくて良かった

西澤： ダスキンさんをあんたなんて言わない。

花園： ダスキンさん？

美咲： ママ、ザキヤマさんはダスキンさんじゃない、ここに住んでるの。

西澤： えっ、あなた住んでるの？男性じゃない、どうしてここにっ？あなた男性でしょ？
え・・・違っの？

衣明日： 花ちゃん、

山本： 違わないですよ、この人、男ですけど一応、

花園： どうしようか。

ザキヤマ： 一応って。

山本： ザキヤマさんはここに住んでるんですよ、どう思いますっ？

西澤： どうって、だってここ女性専用シェアハウスでしょ？え・・・違っの？

山本： だから違わないですよ。

衣明日： ちょっと、山本さん、

山本： なんですか？

ザキヤマ： まーまー。

西澤： まーまーって、あなたの話ですよ！

美咲： ママ。マーマー。

西澤： あれごめんなさい。

山本： (衣明日に) なんで止めんですか？

ザキヤマ： (西澤に) ぼっぺーよ。

衣明日： 花ちゃん。

山本： (衣明日に) 都合悪いことでもあるんですか？

花園： どうしたらいいかな。

衣明日： 私が？

山本： ここに男がいることについて。

西澤： 待って、ザスキんさん本当に住んでるんですか？

ゆづき： ザスキんさん？

ザキヤマ： そうなの。

西澤： なんで？

ザキヤマ： 私のお姉ちゃんのお友達が

衣明日： 花ちゃん。

潤： ザキヤマも女子だからだろ？

西澤： あなた女子なんですか？

ザキヤマ： あんたバカ？こんな爽やかイケメン女子がどこにいるのよ。

潤： ここ。だって花活ける男がいるか？

ザキヤマ： いますう、男だって造花活けますう。

ゆづき： 料理だってしますう。

ザキヤマ： あのね、私はね、造花係に任命されたの、なおていんから直々に。

美咲： なんかカッコイイ。

ザキヤマ： でしょ？今度私の活け造花見に来て、緋マッコクラブ、キング・オブ・the

肩メロン。

美咲： 肩メロン。

西澤： ちょっと娘の前でそんな卑猥な単語！

衣明日： 花ちゃん。

潤： 大げさっしょ、卑猥って。

花澤… ねえ。

西澤… 花ちゃんさん。

花園… はい。

西澤… (ザキヤマを指して)「こちらのタキヤマさんは、男性ですよね。」

ゆづき… タキヤマさん？

花園… 多分。

美咲・ザキヤマ… 多分？

花園… 体は男性だと思う、うん。でも心はわからない。まあ、心の性別ってなんだって話だけど。でも、心で思ってることなんて他人にはわからないから。

美咲… (独り言)「花ちゃんそんなことも考えてたんだ。」

西澤… えちよっと待って今の難しい分からない。

衣明日… 私も。

ザキヤマ… 私も。

山本… あんたも？

花園… 私は、体が女だし、自分で自分のことを女だと思ってる。

西澤… 私も。

衣明日… 私も。

山本… あんたは？

ザキヤマ… だから、私は女子じゃないってば。心も体も男でいいす。

ゆづき… Me too. (ミートウー／僕も)

花園… じゃあ、ザキちゃんは男性ね。

ザキヤマ… だからそうだってずっと言ってるでしょ。普通のゲイです。

西澤… (息を飲んで)「えっ！」

潤… 見た目で予想つくじゃん。

美咲… 本物初めて見た。

ザキヤマ… 気づいてないだけで、街中にいっぱいいるんだから。ま、隠してる人の方が多いけど。生き辛いからね。でも私は、隠さな—い。

美咲… ザキヤマさんカッコイイ。

ザキヤマ… ここにもいるかもよ〜。

潤… えいないだろ。

ザキヤマ… 12人に1人って言われてんの知らないの？(ここにいる人数を数えて)「12345678、だから、私以外ないことになる。」

花園… ザキちゃん、今、なんだか言わせちゃったみたいになって、ごめんなさい。

ザキヤマ： 気づかないぞ。

花園： 自分が認識してる性別はなにかとか、どの性別の人を好きになるのかとか、そういうプライベートなことは、言いたくなければ言わなくて良いんですって。だから、こっちも聞かない。

美咲： （独り言）花ちゃんカッコイイ。

西澤： えちよっと待って今の本当に難しい分らない。

衣明日： 私も。

山本： 私も。

美咲： 私は。

花園： だから……んっ私ほっって言ったっっ美咲ちゃんっ

一同、美咲を見る。

美咲： はい。私は……えっと。私は。

西澤： なに、急にどうしたのみーちゃんっ

衣明日： 美咲っどしたっ

美咲は、花園を見る。それから衣明日を見て、大きく息を吸ってから

美咲： 私は明日からズボンで学校に通いたいと思います。

一瞬の間。

西澤： えっ？

花園： えっ？

ザキヤマ： えーっー！

山本： えっ？

潤： えっ？

ゆいぎ： Suddenly. （突然っ）

衣明日： 突然っ。

西澤： えびっいうことっズボンで通いたいっセーラー服なのっっ上がセーラーで、下がズボンっそれただの水平さんじゃない！

西澤と美咲以外： （感心）おおっ確かに。

西澤： 褒められたわ。

潤： 褒められてはいない。

ゆづき： (独り言) 美咲ちゃんカッコイイ。

衣明日： まぢか。

山本： 驚き。

西澤： みーちゃん、明日ってそんな急に、だって始業式

美咲： 私にとっては急じゃない。いつか言わなくちゃって思ってた、勢いは大事だよ。

西澤： それに、えちよっと待って、スカートが嫌なんて、今まで一回も言ったことないじゃない、今だってスカート履いてるのに、え、そんなの初めて聞いたわよ。ズボンで学校なんて、ダメに決まってるでしょう。

美咲： なんで？

西澤： なんでって。え？(周りの人に) なんで？

美咲： うん、なんでダメに決まってるの？

西澤： あ、もしかして、あなた、グイとかそういう類なの、さっきのダスキンの話に影響されちゃった？

美咲： ザキヤマさんに勇気はもらった。

ザキヤマ： え・・・(感動)。

西澤： え、みーちゃんもしかして男の子なの、男の子になりたいの、男の子が好きなの、そつなの？

衣明日： 男の子が好き、は普通じゃない？

山本： 普通って？

衣明日： 女だったら、男の子が好きって、普通じゃない？

山本： だから、普通って？

ザキヤマ： 私は男だけど男が好き。普通じゃない？

潤： 普通じゃないだろ。

ゆづき： (独り言) 普通って？

西澤： 普通じゃないでしょ、明日からじゃなくても良いじゃない、ちゃんと考えて、ね？
おかしいでしょ、セーラー服にズボンって男の子じゃないんだから、あでも男の子かもしねないのか、えちよっと待っても今の本当に難しい分からないごつし
ぢ。

花園： まあ落ち着いて。さっき、私言いましたよね、プライベートなことを他人に

西澤： 他人って、あなたには分からないかもしれませんけど、自分の子どもが突然変なこと言い出して、だって私は彼女の母親ですよ、親なんだから知る権利があるで

しま、(みんなに)ねっ。

みんな、ロニヤロニヤする。

西澤： なに「ロニヤロニヤ」してるんですか、だって大事なことでしょ、自分の娘が、娘なのかお母さ、息子なのかって、違っ？ねえ、心配になるでしよう？私の育て方がおかしかったのかなとか、遺伝子レベルなのかなとか、元旦那のせいかなとか、今まで娘だと思ってたのに今日から息子だなんて、私どうしたら

ゆうき： 今まで娘だと思ってたのに今日から息子になったらどうなるんですか。

一瞬の間。

♪M9 「普通じゃない」

西澤： 喋った。

衣明日： 日本語喋った。

ザキヤマ： 喋れんだ。

山本： 喋れないんだと思ってた。

美咲： 私ち。

潤： 俺ち。

西澤： 待って ずっと思ってたんだけど あの人誰？

潤： やべー ぜってー「is」ってたの聞いてたじゃん

山本： やべー ピーチクパーチク「is」ってたの私じゃん

ゆうき： みんなのお喋り聞こえてました

全部理解していました

日本語理解してることに気付かなかったんですか？

無害だと 自分たちに関係ないと 思い込んでたから？

僕のこと ガイジンだと 思い込んでたから？

「外人？」「ハーフ？」「帰国子女？」「すごいカッコイイね」「な

んか喋ってるの」「英語上手」「発音良いね」「どっせ自分たちとは違

うしね」「やっぱりガイジンは違っよね」「理解できないよね」

寝めた感じでハブるんだよね 仲間意識大事なんでしょ
そつやってずっとハブられていじめられて

僕は生きてきたんだよ

自分たちだけが「普通」 それ以外は「普通じゃない」

「普通」の自分たちと違う人は 排除して良いと思ってる

今まで「ガイジン」だと思ってたのに、僕が今日から同じ「日本人」になっ

美咲： (鋭くカットイン) シヤシユ。

みんな黙る。

①(お)： what?

美咲： わぁ?じゃないから。今あなたの話はしてない。なんでみんな自分の話ばつかなの、なんで人の話聞かないの、なんで自分が正解だと思ってるの、大人ってバカなの?耳ついてないの? 脳みそ腐ってるの?えなんなの?

西澤： ちょっとみーちゃん、やめなさ

美咲： 今言ったよね?

西澤： ?

美咲： シヤシユ。

大人たち、キョトンとする。

美咲： (花園に) はい、意味は?

花園： 黙れ。

潤： ウケる。

美咲： そつです。

あのね、私、重大な告白っていうか宣言したの、今。明日ズボンで学校に行きま
すつて。でも大人のみなさんに、それが良いかどうかの意見は聞いてません。
西澤： ちょっと、なあん(・)みんなに()なんかすみません、娘が、いや息子が()いや
どっちにしても、なんか入居早々お騒がせしちゃって、「迷惑をお掛けして、

(深々と頭を下げ) 本当にすみません。

西澤・美咲・潤以外… いやいやいや…。(モロモロ)。

花園… 西澤さん、頭を上げ

西澤… ねえ、ほら、あれなんですよ、中二だし、子どもっていつか、

美咲… 子どもじゃない。

西澤… 思春期っていつか反抗期っていつか、引越したばかりですし、まあ不安定っていつか、もしかしたら私が、ね？あのお、離婚したばかりだから、っていつのもあるのかなあ、でもそこはケアしなぐちゃあって思いながらなかなか

美咲… ねえ、だから。シャシユ。

♪M10 「初めての意思表示」

美咲… 誰か私の話聞いてました？

♪美咲… 私は明日からズボンで学校に通います

どんなことが起こるか分からない

分からないけど怖くない

スカートが嫌いな訳じゃないけど

私を突き抜ける強い思いがあるから

なんでズボンはいけないの？

なんでみんなと違ったらいけないの？

なんで「普通」じゃないといけないの？

「普通」じゃなくても良いと 私は知ったから

ここに来て 知ったから

校則だから 決まりだから 女の子だから

女の子らしく スカートを履く

考えることなく 疑うことなく

受け入れなくても良いと 気づいたから

みんなに会って 気づいたから

美咲… 私は私らしくいたくて私のままでいたいから。だってズボンで学校行って誰か困るの？誰も死なないよね？

衣明日： そうだね。

潤が、少しずつ自分以外の人たちの言動が向かっている方向に居心地悪くなり、多少の嫌悪感を抱き始める。

西澤： そりゃそっただけど、でもそんなこと言ったって、もてダメって言われたら・・・

美咲： それは、その時考える。私は自分で考えて行動することにしたの。(花園)はい、それは？

花園： 主体性。

潤： なにこのシステム。

西澤・美咲・花園・潤以外： (感心)おおくなるほど。

西澤： でも、もしあなたに何かあったら・・・

美咲： 何かって？

西澤： いじめとか。

美咲： ってゆうか、男だからとか女だからとかじゃなくて、他にもいると思うんだよね、普通にスポン履きたい子。

山本： そっかもね。

西澤： でも心配じゃない。

美咲： 心配じゃないことはないけど、でも、私はスポンも履いて良いってことにして欲しいの、すっと思ってたんだけど。いやだって、寒いし、痴漢いるし、っていうか、単純にスポンの気分の時だってあるよね。ママだってそうでしょ？

ザキヤマ： そっよね。

西澤： わかった、スポンのことはわかった、OKかどうかはまだ分かんないけど、でもとりあえずあなたの意思は伝わった、けど、あの、あなたの、あなたが、その、あれ、(みんな)ねえ？

美咲： ねえ？じゃわからないよ、なに？

西澤： だから、そのお、なんて言うの、あれよ、分かるでしょ、ほれ、

美咲： ママが言い終わるまで、私は待つよ。

西澤と美咲以外： (感心)おおくなるかな。

西澤： なるほど、質問は察さない、と。じゃあ。あの、あなたが、えっと、(小声で)「二ヨる」娘なのか息子なのかゲイなのかどうかっていうのは・・・？

美咲： っていうのは？

西澤： ...教えてもらえぬ？

美咲： 言いたくない。

西澤： でもお、ちゃんと言ってくれなくちゃ分からないから。

美咲： 分からなくて良いんだよ。私の体が女の子ってこと以外になにを知る必要があるの？

西澤： だってえ・・・

ゆうき： あ。言いたくなったらで、良いんじゃないですか。

西澤： はい？

ゆうき： 言いたくなる時が来るかもしれないし、来ないかもしれないし、でも、それは美咲ちゃんの意味で良いんじゃないですか。

潤： 日本語だとグイグイいくねえ。

西澤： となると、一生教えてもらえないかもしれない。

ゆうき： かもしれない。そうじゃないかもしれない。

西澤： ・・はい。

ゆうき： とりあえずは。

衣明日： うん、そうだね、今のところは

ザキヤマ： 待つっていいのは良い

山本： 美咲ちゃんの心の準備が

西澤： 気持ちが変わるかもしれない

美咲： だから、そっやって、人のこと分かったような良い感じになって満足しないでもらえますか？大人ってなんだろ、大人って、もっと大人なんだと思ってた。でも大人って、分かっているつもりっていうか寄り添った感じで気持ち良くなってるとかなのかも、本当は分かっているのに。だって何にも分かっているんだから。私のことなんて、誰も分かってないんだから。

西澤： みーちゃん、なんでそんなこと

ゆうき： わかるよ、ぶっせ自分のことなんて誰も分かってくれないって思っつのは、わかる。僕もずっとハブられてたし。

西澤： えっ！

山本： 私も。

西澤： えっ！

ザキヤマ： 私も。

西澤： ああ〜(納得)。

ゆうき： だし、自分がなんなのか分からないっていうのも、わかる。

衣明日： 私も。

潤： ああ〜(納得)。

ゆうき： 日本だとガイジンって言われて、アメリカだと日本人って言われて。僕はどっ

ちかな、誰なのかな、みたいなの？

花園： 美咲ちゃんは、自分のこと分かってるの？

美咲： え？

花園： もし自分のことが分かってないのに、他人に自分のことを分かっていっつのは、

あれよねえ、やっぱり。子どもよねえ。

美咲： だって子どもだもん。

ザキヤマ： まあそうね。

西澤： ちょっとみーちゃん、

花園： 子どもじゃないんじゃないの？

潤： ウケる。

花園： 一人で闘いたい気持ちはわかる。一人なんじゃないかって思うのもわかる。どう

せ誰も分かってくれないじゃんっていうのもわかる。でも、美咲ちゃんは一人じ

ゃない。

美咲： ……

潤： (小声で)キモ。

花園： 少なくとも、ここでは。

ゆうき： うん。

花園： 美咲ちゃんは、無理に話さなくて良いし、話したくなったら話せば良いし、私た

ちは聞き出さないし、でも話すんだったら聞くし。一人だけ一人じゃない、み

たいな感じ？私はいつでもここにいるし、他の人もウロウロしてるし、だってそ

れがシェアハウスだから。

花園・美咲・潤以外： (感心) おお〜まとまった。

ザキヤマ： 感動〜。

花園、美咲、潤以外、チラホラと拍手する。なんとなく良い雰囲気にな
る。

西澤： 花ちゃんさん、なんかすみま

潤： ってゆっつか、まじでここキモいっすね、なにこの感動〜みたいな感じ、すげえな。

さみーっつーかこえーっつーか、なんかカルトっぽいっつーか、えだってこれガチ
でしょ??ウケる。だいたい、人間が、ここにこれしかないのに、生意気な中学生

が一人、ガイジンが一人、オカマが一人、オタクが一人、スピオブヨガが一人、お花畑ママが一人、オーヤ・ハナツジオが一人、あってる？こんなに揃う、普通？ある意味、凄いと思う、えげつな。

衣明日… 潤ちゃん。

潤… (美咲に) 社会勉強できるよ、こんだけいろんな人がいたらさ。良かったね。

花園… だって人が集まってるんだから、いろんな人がいるのは当たり前でしょう。

衣明日… すいません。

潤… ん？なんでお前が謝ってんの？

衣明日… だって。

山本… うん、なんであんたが謝ってんの？(潤に) ってゆうか、お前最後の低だわ、クズオブクズのクズ不可避。

潤… は？

美咲… カッコイイ。

山本… (衣明日に) あんたさあ、なんでこんなクズに氣イ遣ってんの？

潤… えお前なに？

山本… (衣明日に) 前から思ってたんだよね、なんでなの？

衣明日… だって彼氏だし。

山本… え、やば(失笑)。

潤… (山本に) お前どうせぼっちだろ。

花園・西澤・ザキヤマ… やだなんでバシたの

山本… ぼっちじゃねえし。

潤… コスプレはカウントしねえから。

山本… 彼氏いっから、だいたいそれ今関係ないし、ってゆうか、お前こそなんだよ、ただのパンツ泥棒じゃん。

間。

潤… え？

西澤… え？

衣明日… えー！

ゆいぎ : Suddenly.

衣明日… 突然に。

潤… えなんの話？

西澤… えどういうこと？このクソオブクソが、

山本… クソオブクソ？

西澤… ヨガおパンツ泥棒なの？

潤… えまぢでまぢで。

美咲… 結局なに泥棒？

山本… ぼくのおパンツ泥棒。

潤… えなにおパンツ泥棒って。

衣明日… 潤ちゃん！

ゆづき… You sick!

ザキヤマ… あんたほんと最の低よ、最の悪よ、最のおパンツ泥棒よ！

潤… ちょ待って、それ俺じゃない！

山本… ぼくのおパンツを盗んだ犯人はあんたしかいない！

潤… いやそれはがちで俺じゃない！

山本… しかも今日が初めてじゃない！

山本・潤以外… (花園は控えめに) えー！

山本… 2回目ー！！

山本・潤以外… (花園は控えめに) えーー！！

山本… この3ヶ月で！！！！

山本・潤以外… (花園は控えめに) えーー！！！！

みんな、一気に潤から離れる。

山本… 返して。

衣明日… 潤ちゃん返して。

潤… お前さあ、俺とそのオタクとどっち信じたよ？

衣明日… それは・・・

潤… な？

衣明日… ……。

潤… (優しく) すー。

みんな、黙る衣明日からも離れる。

衣明日… (小声で) 山本さん。

山本： はい。

衣明日： 私は、山本さんを信じる。

衣明日・潤以外： (感心) おお、自立。

ザキヤマ： 衣明日の自立。

美咲： カッコイイ。

潤： いやいやいや、なにこれ、えほんとに、あなた達頭おかしいよ？大丈夫？オタクの汚ねえパンツなんて盗まねえから、女にも困ってねえから、

山本： ちよ

潤： 証拠もねえのに疑うとか、狂ってんじゃねえの。

衣明日： 潤ちゃん。

潤： なんだよ。

衣明日： じゃあどうやって失くなったの？

潤： 知るか、盗んだ奴に聞けよ、っつーか、俺以外にも男いるからな、ここ、分かってるの？

山本： えどういうことっえ・・・もしかして？

と、と、ザキヤマを見る山本。

ザキヤマ： いらぬおかしな話じゃ、あなたのおパンツなんてまっったく興味ないですよ。

山本： そうだよな、いぬえ。

ザキヤマ： ぼっぺーよ。

山本： じゃあ・・・っ

と、と、ゆづきを見る山本。

ゆづき： えちよっと待って、僕じゃ

花園： ねえ、ここでこんな犯人探してみたいな

西澤： あっ。(ちよっと考えて) あれっ？

みんな、西澤を見る。

西澤： (少し挙動して) あいえ、なんでもないです。

みんなが疑いの目で見てる事に気がついて、

西澤… あ、なんか、喉乾いたなあ。ちょっと「ロンピ」までひとっ走り

美咲… ママどうしたの。

西澤… (とぼけて) なにか？

潤… いや今の流れでなにが？はおかしいよね、お母さん。

美咲… あんたのお母さんじゃないから、気安く呼ばないで。

美咲・潤・花園以外… (感心) おお〜強気。

美咲… ママ、どうしたの？

西澤… ううん、どうもしもないの、もういいのよ。

花園… (宥めて) 美咲ちゃん。

美咲… ママ。よくないでしょ、ちゃんと行ってくれなくちゃわかんない。

衣明日… そうだね。

みんな西澤を見つめる。

西澤… いや、あのお、まあ、ちょっと思い出したっていうか、えっとお、ただの予想なんですけどね、もしかしたら違うかもしれないんですけど、あのお、そのお、ねえ？

美咲… だから、ねえ？じゃ分らないってば、なに？

美咲・潤・花園・西澤以外… (感心) おお〜更に強気。

西澤… うん、今日ね、山本さんの洗濯機がピーッピーって鳴った時に、鳴った時は、えっと、私とみーちゃんと衣明日ちゃんさんはここにいました、ね、そうよね？それで山本さんは、多分お部屋にいました、ですよね？そしてこちらのクソオブクソは、まだ遊びにいらしてなかった。ザキママさんは、今全否定された、まそれを信用するとして。ってことは、もしかして、お二人の共謀？

みんな、花園とゆづきを見る。

西澤… 姉弟の共謀？

西澤・ゆづき・花園以外… えー……！……！

西澤… 姉弟なの？

ユウキ ヲウキ みんな、ユウキは花園から離れた。

園外： OH, MY. GOD! Oh my God! What? Are you serious? Unbelievable what
you just said (ユウキ ヲウキ 何かに気がつく) 花園は、嘘じゃないって
っ、なんだ。

ユウキ ヲウキ ヲウキは花園を助る。

このユウキの言葉を聞いて、全員理解する。

花園・ユウキ以外： えー……………！……！

ユウキ以外、みんな花園から離れる。

西澤： 花ちゃんさんが犯人？！

山本： え、待って待って、だってなんて言ってた？「ア・トップスターで犯人って宝塚
の演目みたいじゃない(笑)」って。「もしは」…あ。

美咲： 「もしは、トップスターの人が犯人」って。

花園・美咲以外： ひゃえー……………！……！

潤： やば。

ユウキ： え、なに、これどうすんの？ 大家なのに泥棒とか、完全アウトじゃん。

西澤： 女性専用の意味。

花園： うん、ごめんなさい。まず、山本さん、ごめんなさい。本当にごめんなさい。
それと、みなさんにも、ごめんなさい。

山本： いやあ、ええー？ 驚きなんですけど。え本当？ えっと、あの、なんで盗んだん
ですか。(気付く) もっかっ、あいつの好きなんですか。

花園・山本以外： ……？

花園： いやそれはなくて。

山本： お、お、おう。

花園： まあ、なんていうか、綺麗な下着だったっていうのもあるんだけど、

ザキヤマ： ヲウキ。

ユウキ： ツールの揃いの赤。

ザキヤマ： 品が良い。

花園： 多分。多分だけど、山本さんって、なんかここに住んでる誰よりも充実して見え

て、楽しそうで、あっちこっち自由に出かけてるし、生活時間も自由だし、外で好きなことやってるし、好きなお姫様と王子様の衣装作ってその衣装着て写真に撮ってそれをお部屋に飾って、憧れの推しさんもいるし、彼氏さんもいるみたいだし、なんかそついう自由っていうか、勝手っていうか、他人にどう思われようと関係ないっていうか、迎合しないっていうか、じゃないと38でその格好はしないっていうか、

みんな山本を見る。

山本： 「好き」を追求するのに年は関係ないです。

美咲： なんかシヨック。

花園： ごめんなさい。

みんな黙る。

潤： いやあ、ウケる。

♪M11 「シエアするハウス」

潤： 俺は？ 疑われてた俺は？ 誰か謝る？

なんなら全員俺のこと疑ってたよね？

男が全員 女の下着を盗むと思ってる？

女の下着には盗まれる価値があると思ってる？

自意識過剰 俺にも選ぶ権利あるから

結局 女の敵は女ってこと

女同士のくだらない嫉妬 嘘 足の引っ張り合い

シエアとかケアとかフェアとかなんとか言ってるけど

女性専用シエアハウスなんて害しかない

女たちで集まって傷の舐め合い慰め合い

惨めで可哀想な女たち

衣明日： 潤ちゃん、もう止めて。もう分かったから、もう言わなくていいから。もう止

めて。もう歌わないで。

なんで潤ちゃんがそんなにこの人たちのことを、こんなに素敵な女性達のことを嫌うのか全然分かんないけど、だってみんな良い人たちだから、色々あるけど、でもみんなそれぞれ優しくて楽しくて頼りになる素敵な人たちだから、みんなのことを悪く言ってしまうから、でもそれは潤ちゃんの問題だから、私には関係ないから、私はその理由を知りたくないから、知る必要がないから、だから、出て行って。(短い間)今。それと、ここにはもう来ないで。

誰もなにも喋らない。

潤が玄関に向かう。

山本： あ、ちょっと、

立ち止まる潤。

山本： 疑って、すみませんでした。

西澤： 私もすみませんでした。

美咲： 私も。

ザキヤマ： 私も。

ゆづき： 僕も。

衣明日： 私も。

潤： お前もかよ。

衣明日： うん、ごめんなよ。

潤： 今日どうすんの？断捨離？

衣明日： 私、パジャマパーティに参加するから、一人で頑張ってる。それと、美咲に気安く話かけないで。(潤がなにか言おうとするのを遮って)気を付けて帰ってね。

潤： なにこれ、まちでくだらねえ。ああ腹減った。

と言って、潤は去る。

山本： あのお。森出さん。

衣明日： はい。

山本： カッコイイ。

美咲… カッコイイ

花ちゃんは自由なんだと思ってた

自由に生きてるんだと思ってた

衣明日… 人のこと羨まないんだと思ってた

山本… 人にどう思われても気にしないとってた

美咲… そうじゃなかったら 金髪にしないよね？

美咲・花園以外… 金髪？

ゆうき… みゆきちゃんが金髪？

西澤… みゆきって誰？え・花ちゃんさん？

花園… 花園みゆきです。

西澤… 西澤薫子です。

衣明日… 佐藤愛です。

衣明日以外… 誰？

衣明日… 私の本名です。

衣明日以外… えー……！！！！

美咲… 大人は大人で 子どもと違って

カッコイイと思ってた 大人なんだと思ってた

花ちゃんのことカッコイイと思ってた

花園… ごめんなさい

美咲… でもそんなもんだよね べつにカッコ良くないよ

ドラマじゃないんだし そんなカッコ良くないよね

みんなそんなにカッコ良く生きてないよね

ここにいてる人で カッコ良く生きてる人 いる？

西澤… カッコ良く生きるってなにかしら

衣明日… 自分の足で立つこと

ザキヤマ… 自分を大切にすること

山本… 自分の好きも他人の好きも 大事にすること

ゆうき… シェアすること *Giving and Sharing*

花園… シェアすることは豊かに生きること

西澤… 自分の人生を生きること 難しいけど

美咲… 難しいよね

でも人生って 生活って 生きるって
そんなもんなんだって
そんなにカッコイイものじゃないって
それでも良いみたいって
それでも前を向いて歩くんだった
そこそこカッコイイ大人たちに会って わかった

一瞬の間。

この後どうしたら良いのかみんな分からない。

西澤：そこそこ……。

美咲：違う？

西澤：違うない。

山本：結局、なんで盗んだんですか？

花園：（考えて）多分、山本さんの自由が羨ましかったんだと思う。なんか、あの華やかな下着が自由の象徴に思えたんだと思う。私はああいうの持ってないから。

花園・山本以外：（感心）おおくでしょうね。

山本：なるほど。

衣明日：じゃあどうします、山本さん？……花ちゃんのこと。

みんな、山本に注目する。

山本：そうだなああ。まずは、下着を返してもらおう。前回は花ちゃんですか？

花園：はい。

山本：じゃあそれも返して下ね。

花園：はい。

山本：それと、これ軽く犯罪ですよね、窃盗^{ちやくとう}。

西澤：響^{ひび}きが重い。

ゆっき：ですね。

山本：「大丈夫私全然気にしてないです！だから無かったことにしよう」「みたいなキラキラキツした感動はキモいから、やっぱり罰^{ばつ}は受けてもらいたいんですけど、知^しるはずさ。

花園：もちろん。

美咲：花ちゃん。

美咲： みなさん、今日はこの格好のままヨガやりませんか？これがパジャマですって言えばパジャマになるし、これがヨガの格好ですって言えばヨガの格好なるんだって、言ったもん勝ちだって、花ちゃんが教えてくれました。

花園： 美咲ちゃん。

ゆづき： 良いこと言うじゃん。

ザキヤマ： 本当に。じゃあ、これ、私の今日のパジャマ。

西澤： あれ素敵なおパジャマ。

ゆづき： さ、よろよろ。

花園： 先始めて、私ピザ屋さんに注文してくる。種類は任せてね。

花園以外： はいー！

花園、キッチンに去る。

衣明日： じゃ、みんなそれぞれ場所確保して〜！

衣明日以外： はいー！

西澤： 楽しいー！

各自、ヨガをやるスペースを探したり、ストレッチしたり。
転換。

【エピソード】

次の日。月曜日の朝。家の前。

花園が道路の掃除をしたりお花に水をあげたりしている。

♪M12 「朝（リプライズ）」

花園：（鼻歌的に）ららら めめめ 朝

ららら 月曜日の朝

ゆうき、大学へ登校するべく玄関から出てくる。

ゆうき： 行ってきまーす！月曜日限まぢしんど。

花園： 頑張ってるってらっしやいー！

ゆうき： はい。

玄関から衣明日がジョギングの格好をして出てくる。

衣明日： 行ってきまーす！

花園： 行ってらっしやいー今日は迷わないようにねー！

衣明日： はいー！

家の中に入る花園。

誰もいない舞台。

玄関から美咲が出てくる。セーラーにスポンを合わせた姿で。

美咲：（家の中に向かって）わかってるって大丈夫、

（声）西澤： みーちゃん！

美咲： 行ってきまーす！

美咲： らららら ア・トップスター

美咲の未来への希望に溢れる笑顔を見せたあと、走って去る。

暗転。

おしまい。